

Vol. **181** 2022.春夏



特集

《令和4年度》定時総会

本住協
NOW

住まいのトレンドセミナー

ふたやな清は感じ
日差しも和らぎます。



一般社団法人

日本木造住宅産業協会

CONTENTS



	折々のひとひら	1
特集	令和4年度定時総会を開催	2
FOCUS	WOODRISE 2021 BUSINESS SESSIONに木住協が出席参加	9
	令和4年4月5日 「住宅生産行政の最近の動向～カーボン・ニュートラルの実現に向けて～」について	11
木住協NOW	資材・流通委員会「住まいのトレンドセミナー」開催	13
	第25回「木のある暮らし」作文コンクール募集のご案内	14
連載	木造ハウジングコーディネーター奮闘記／(株)オープンハウス・アーキテクト 加藤孝彰さん	15
木住協NOW	木造ハウジングコーディネーター試験 成績優秀者表彰	17
	木造ハウジングコーディネーター資格試験の活用例／新人育成プログラムに採用	19
FOCUS	木造ハウジングコーディネーター資格試験の活用例／新入社員の現在の心境を聞く	21
	木造ハウジングコーディネーター資格試験の活用例／入社1年後に思うこととは	23
連載	日本の世界遺産探訪／山梨県 静岡県 富士山	25
	「木住協の森」活動報告(九州支部)	27
	コロナ禍克服後の支部地域発展に期待(四国支部)	28
木住協NOW	資材・技術委員会主催 第1回商品技術勉強会(近畿支部)	29
	コロナ禍で商品勉強会をWEBセミナーにより実施(中部支部)	34
	神奈川支部の応急仮設関連の動き(神奈川支部)	35
	新支部長登場	36
木住協NOW	「こうすればできる」純木造3階建て事務所建築」中大規模木造の検討」講習会	37
	2022年度 木造ハウジングコーディネーター資格試験および講習会の開催概要	38
	新規会員紹介	39
連載	木の匠 Historia／聴松閣(愛知県名古屋市)	40

『旗』・・・たなびかせる、民族の象徴



オリンピックでの国旗は、清々しく晴れやかにたなびき、選手への賞賛と労いと共に、彼らを支え育んだ国の人々の姿が、そこに映し出されるようだ。

しかし、その余韻にひたる間もない、二〇二二年冬季オリンピック後、国旗がたなびく風向きは、急変する一途をたどっているといえよう。破れかけたり、煤にまみれたり、また、握りしめられたりした国旗を、私たちは、連日、目の当たりにすることとなっている。

その昔から、民族の象徴として、「旗」はあった。

漢字『旅』は、同じ氏族の人々で、本貫の地でない土地へ出向くことを意味していた。また、漢字『遊』も、旗竿に吹き流しをたなびかせているさまが、示されている。太古の時代、まだ見ぬ他の存在を知ることままならぬ時代も長かった。そんな時代を経て、他の存在を知り、そこでこそ改めて感じる自分たちの民族としての誇りや主張を保ちながらも、他を尊重し、共存していこうとする、国際社会秩序なるものが、人類の中では醸成されてきたはずであったが、荒々しい音と共に、近代化社会の光景が、白黒写真となり引き破られ、それらが走馬灯のように駆け巡る。あたかも、地球儀が、反対周りを強いられているようでもある。

漢字『人』は、ひとりの人間を横からみた姿で、『立』は、ひとりの人間が、地に足を着けている正面からみた姿。『並』とは、きちんと立った人がふたり、同じ方向を向いて、しっかりと立っている姿。

人は、動植物、海洋生物、様々な生命との調和で、今日まで尊い命を繋いでこられた。

地球上に生きとし生けるものが、しっかりと立ち、融和し合い、並び、旗を清々しくたなびかせる日を実現させられるよう念ずる。

書家・文字文化文筆家 宇佐美 志都





令和4年度 定時総会を開催

2022年5月26日、東京都港区元赤坂の明治記念館にて、一般社団法人 日本住宅木造産業協会の令和4年度定時総会が開催された。今回は、出席者の健康に配慮し感染予防に万全を尽くしたうえで、関係者が一堂に会する集合型での開催となった。同時にオンライン参加も募り、当日の様子は会員限定公開でライブ配信も行われた。定時総会では、①令和3年度事業報告に関する件、②同収支決算に関する件、③役員の選任に関する件—の3議案を審議したほか、令和4年度の事業計画及び収支予算に関する報告も行い、それぞれ満場一致で原案通り承認された。開会の挨拶に立った市川晃会長は、withコロナ時代の住生活の変化や、住宅の重要性が再認識されている現状に触れ、住生活向上への貢献は住宅業界の使命であると語った。また、『2050年カーボンニュートラル』や『DX(デジタル・トランスフォーメーション)への取り組み』を課題として挙げ、木住協としても市場動向を注視しながら有用な情報提供を目指す述べた。また、コロナ禍に加え、不安定な世界情勢の影響による木材価格の世界的高騰『ウッドショック』にも触れ、住宅資材のサプライチェーンと物流の混乱は今



開会の挨拶を行う市川会長

後も続く予想。国産材の活用と安定供給への期待が高まる中で、政官民一体となり、国を挙げてビジネスモデルを再構築することが急務であるとの考えを述べ、会員と共に地方創生に貢献するよう協会活動に邁進したいとの決意を語った。定時総会終了後は、3年ぶりの開催となった功労者表彰式が開催された。また、理事会、記者会見も開催されたが、昨年に続き懇親パーティーは中止となった。

『環境に優しい木』を扱い、木を活かし、 地方創生への貢献にもつながる役割をさらに—

開会挨拶の中で、市川会長は、木住協の今後の活動指針や、活動意義として、以下のように述べた。

「いびつな貿易構造と混沌とした世界情勢下で、国内経済は物価上昇圧力が高まっていますが、景気回復の基調が弱いことから、スタグフレーションに陥る懸念も生じてきています。今後も国内の経済情勢は不透明な状況が続きますが、内需の柱である住宅事業、特に木造住宅に関しては、安心、安全、健康で、環境に貢献する社会インフラとしても、お客様が必要な時に安心して購入いただけるような仕組みづくりを進めていく必要があります。そのためには、従来より主張してきた住宅税制の抜本的見直しを含めた、住宅対策の拡充が必要であり、引き続き住団連を通じて働きかけを重ねてまいりたいと思います。本年1月には全国で18か所目となる「災害時における応急仮設住宅の建設に関する協定」を兵庫県・神戸市と締結致しました。また近々、中国地方にも支部を立ち上げる目途がつき、今後は10支部体制となります。

当協会は「環境に優しい木」を扱う会員が集まり、それぞれの地域で木造軸組住宅をはじめとする「木材の活用」につながる様々な事業を展開しており、我が国の地方創生にもつながる役割を果たしていると思います。今後とも、きめ細やかに会員の皆様、お客様、そして地域社会のお役に立てるよう協会活動に邁進してまいりたいと思います。」

木の時代をリードする団体としての 一層の活躍に期待

続いて、来賓として国土交通省住宅局 住宅生産課の宿本尚吾課長が祝辞を述べた。初めに、参加者および木住協会員の様々な立場からの行政への協力に感謝を述べ、「マスク越しではありますが、久々に対面という形で、会が開催できたことを嬉しく思います。」と述べた。その後、最近の住宅政策の動向等について、「近年、世界の大きな潮流としてカーボンニュートラルな社会の実現があげられます。これに対しては、政府全体として様々な取り組みを行っているところですが、住宅建築の分野では、特に省エネ化・木造化の推進が重要になってきています。木造

化の推進・促進については、私もこれまでになく大きな盛り上がり、うねりを感じております。政府で創られた盛り上がりというよりも地に足の着いた盛り上がりが見られ、これは地方創生にもつながっていくのだらうと思っております。」と述べた。さらに、カーボンニュートラル社会の実現に向けて、様々な取り組みを通じて予算・税制・法律についてしっかりと整備していく必要があるとし、現状について「昨年の税制改正では住宅ローン減税制度の期限を4年間延長しました。省エネ制度に着目して借入限度額に差を設け、控除率は0.7%となりましたが、一方で控除期間を13年に延ばし、中間層に手厚くローン減税が効くような制度設計としています。予算については、昨年度補正予算では子育て世帯の省エネ住宅を支援するという事で『こどもみらい住宅支援制度』を創設し、ご好評をいただいております。来年3月までの延長が決定しております。さらに、法律については、建築物省エネ法、建築基準法の改正について木住協からも要望書をご提案いただくほか、各方面に働きかけをしていただき、その結果、4月22日以降改正できることになり、衆議院の本会議で可決。今後参議院で審議予定です。この法改正の中では大規模建築の木造化に関して防火規制や木造化の促進なども大きな柱となっています。」と各方面での取り組みについて説明した。最後に、木住協に今後の見通しとして、「省エネ化、木材利用の促進は、少なくとも当面は加速することはあっても停滞することはないと考えています。特に中高層の住宅や非住宅の木造化は地方創生の観点からも、課題はあるが乗り越えて、国としても、成長産業として進めて行くべき重要なテーマだと政府全体で考えています。」と語り、木造住宅や木造建築物の浸透に関し、より充実したものになることを願うとして、今後の木住協の活動に期待を寄せた。



来賓祝辞を述べる国土交通省 住宅局
住宅生産課 宿本尚吾課長

この後、市川会長が議長に就任し、議事録署名人に億田正則副会長と越海興一専務理事の両氏を指名して議題の審議に入った。第1号議案「令和3年度事業報告に関する件」と第2号議案「令和3年度収支決算に関する件」については関連性があることから一括審議され、越海専務理事が報告・説明を行った。報告内容は以下の通り。

第1号議案「令和3年度事業報告」

- 会員の状況について—令和4年3月31日には、正会員577社、賛助会員とあわせて636社となり、昨年度に比べ7社増加した。
- 会議開催について一定時総会は、六本木グランドコンファレンスセンターにて入場人数を制限し、オンライン参加の併用にて実施。理事会もコロナ禍のため、第1回はオンライン併用にて、第3回は書面にて実施。運営委員会は令和2年6月から事務局会議室で実施。WEB併用での運営も行いながら1年間で計10回の委員会を毎月開催した。
- 主要行事への参加及び協賛等について—コロナの影響で行事参加等が減少していた令和2年度に比べると、多い実績となった。
引き続き、各事業委員会の事業活動が報告された。各事業委員会の主な活動については以下の通り。

技術開発委員会

- ①木造軸組工法による耐火構造等の研究 ・「木造軸組工法による耐火建築物設計マニュアル」(A:1時間耐火構造/B:2時間耐火構造)講習会を開催。令和3年度受講修了登録者はA: 合計441名、B: 合計50名であった。
・ 令和3年度の「木造耐火大臣認定書」(写し)(1時間耐火構造)の発行件数は305件、(2時間耐火構造)の発行は1件(累計発行件数は2件)。
・ 外壁、間仕切壁の75分準耐火構造の大臣認定及び外壁の90分準耐火構造の大臣認定取得を受け、マニュアル(追補版)を作成。
- ②木造軸組工法による省令準耐火構造(木住協仕様)の普及 ・「木造軸組工法による省令準耐火構造の特記仕様書(木住協仕様)」の令和3年度頒布数は25,060部。
・ 「省令準耐火構造(木住協仕様)マニュアル」講習会(研修部主催)をWeb方式にて実施。令和3年度受講者は合計536名。
- ③中大規模木造建築の検討 ・木造軸組工法による高耐力耐力壁(木住協仕様)マニュアル講習会をWeb方式にて開催。受講登録者は合計38名。
・ 『こうすればできる「純木造3階建て事務所建築」中大規模木造の検討』として書籍を発刊。
- ④木造住宅の長寿命化のための改修成功事例集の充実
- ⑤耐震診断プログラムの普及
- ⑥法令改正、関連基準整備等への対応
- ⑦関連団体等の外部委員会等への参画及び支部活動支援

生産技術委員会

- ①リフォーム関連 ・「既存住宅状況調査技術者講習」



報告・説明を行う越海専務理事

(新規・更新)を7月より開催。
・ 「木住協安心R住宅の仕組み・運用説明会」をZoom開催。受講者21名。

- ②生産管理関連 ・「木造軸組工法住宅 施工管理チェックポイントマニュアル」を活用したセミナーをオンラインにて実施。ホームページで会員限定の動画配信を開始。
・ 特定技能建築大工推進協議会に参加し各種制度設計に関わり、建築大工関

係6団体と連携し、建築大工の特定技能外国人の受入れ体制を整備。

- ③安全衛生・CS関連 ・「木造住宅施工管理者のための安全管理実務マニュアル」を全面改訂。「施工管理者のための安全衛生スキルアップセミナー」を会員限定でWebセミナーを開催。
- ④建設副産物関連 ・「石綿関連法令」改正に対応するための基礎セミナーをオンラインで開催。

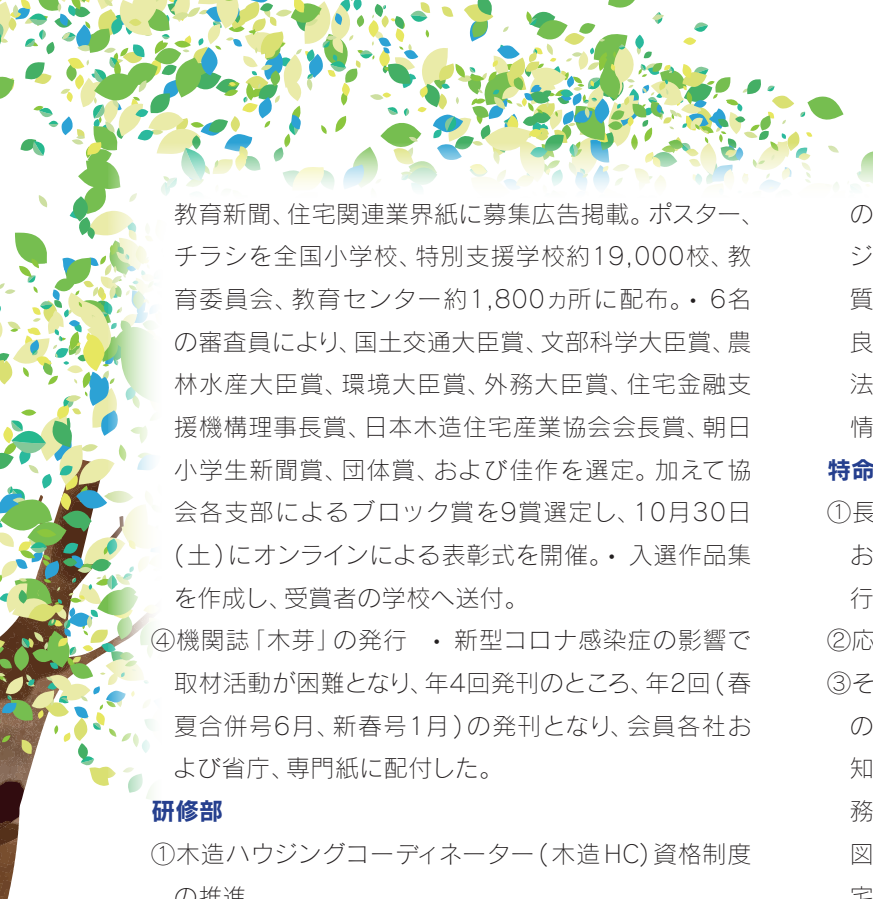
委員会活動

資材・流通委員会

- ①「住まいのトレンドセミナー」の開催による情報提供
- ②見学会の開催 ・「住友林業株式会社 つくば研究所」を視察。
- ③「Select the Best」の発刊(4回/年)
- ④「資産価値のある高耐久住宅研究ワーキンググループ」
・ ワーキング2回開催。・ 幹事会3回開催。・ 幹事ヒヤリング、サッシメーカー2社開催。

業務・広報委員会

- ①自主統計および着工統計の分析 ・令和2年度の会員の着工数を国土交通省の着工統計と比較・各種分析。調査内容を報告書にまとめ報告会を開催。
- ②広報活動 ・マスメディアリリース:5月の定時総会、8月の自主統計分析報告会、10月の作文コンクール表彰式、1月の木造ハウジングコーディネーター優秀者表彰式の際に記者発表を開催。4回ともオンラインにて実施。
・ HP・メルマガ: 令和3年度の読者数は、1,760アドレス程度で遷移し、発信回数は79回。
・ 宣伝活動: 協会活動の広告を13紙33回出稿。それ以外に、当協会に関する記事は12紙に63回掲載。
- ③作文コンクール ・10月18日を「木造住宅の日」と定め、第24回「木のある暮らし」作文コンクールを実施。海外5か国6校の日本人学校を含む969校から応募が寄せられ、応募作品は6,085点。
・ 朝日小学生新聞、



教育新聞、住宅関連業界紙に募集広告掲載。ポスター、チラシを全国小学校、特別支援学校約19,000校、教育委員会、教育センター約1,800カ所に配布。・6名の審査員により、国土交通大臣賞、文部科学大臣賞、農林水産大臣賞、環境大臣賞、外務大臣賞、住宅金融支援機構理事長賞、日本木造住宅産業協会会長賞、朝日小学生新聞賞、団体賞、および佳作を選定。加えて協会各支部によるブロック賞を9賞選定し、10月30日(土)にオンラインによる表彰式を開催。・入選作品集を作成し、受賞者の学校へ送付。

- ④機関誌「木芽」の発行 ・新型コロナウイルスの影響で取材活動が困難となり、年4回発刊のところ、年2回(春夏合併号6月、新春号1月)の発刊となり、会員各社および省庁、専門紙に配付した。

研修部

- ①木造ハウジングコーディネーター(木造HC)資格制度の推進。
②「住宅と税金(税制ガイドブック)」の改訂と販売。
③省令準耐火特記仕様書(木住協仕様)講習会の開催。
④スピードスケッチセミナーの開催。
⑤木造軸組工法住宅の基礎知識講習の開催。

認定事業推進委員会

- ①『木優住宅』取扱事業運営 ・『木優住宅』の実績は前年度より増加し、23,485戸。目標の19,000戸を遥かに超えた。木造住宅検査員講習会は、Web講習に切替えた。新規Web講習は53名、更新Web講習は122名が受講。令和3年度末の登録者総数は、合計175名。
②『木優住宅』の瑕疵保証事故の抑制 ・『もう、雨漏りを起こさない!! 木造住宅の防水施工セミナー』をWeb開催。参加者39名。『ご存じですか? 防水シート新規格』ウェビナーを開催。参加者30名。基礎編セミナー『“家づくりは地盤から” 今さら聞けない、宅地地盤の基礎知識オンラインセミナー』を2回開催。応用編セミナー『“地盤と建築をつなぐ” 住宅事業者が押さえておきたい宅地地盤の知識 応用編 一』をウェビナー開催。受講者77名。
③木造軸組工法住宅の管理体制の向上 ・木造住宅検査員監査を実施。令和3年度からメール書面監査に移行。検査員約630名の1/3(3年間で全検査員の監査を実施)210名を対象に実施。
④「木住協総合補償制度」の取扱い ・令和3年度は1月に募集を行い77社(令和2年度71社)の加入。(株)住宅あんしん保証の商品「あんしんとくとも倶楽部」の販売も実施。
⑤住宅瑕疵担保履行法の対応 ・【長期優良住宅法改正

のポイント解説webセミナー】案内を、木住協ホームページに掲載、及びメルマガ等で周知を図った。・「住宅の質の向上及び円滑な取引環境の整備のための長期優良住宅の普及の促進に関する法律の一部を改正する法律」が、令和4年2月20日一部が施行となる趣旨の情報提供資料を木住協ホームページに掲載。

特命担当

- ①長期優良住宅対応事業 ・長期優良住宅先導事業において採択された、合計228戸の履歴管理を引き続き行った。
②応急仮設住宅建設に係る検討
③その他 ・木住協応急仮設住宅供給対応マニュアル掲載の帳票のデータ作成。県仕様の平面図のデータ作成(愛知県・愛媛県・神奈川県) ・神奈川県事前対策検討業務として、仮設住宅建設予定地の現地調査及び配置計画図の作成。 ・横浜市事前対策検討業務として、仮設住宅建設予定地の現地調査及び配置計画図の作成。

総務・企画

- ①(仮称)中国支部の設立
②新型コロナウイルス感染拡大に伴う会費減免措置等

その他の主要業務

- ・林野庁「国産材の安定供給体制の構築に向けた需給情報連絡協議会」の地区別需給情報連絡協議に各支部より委員参加し、令和3年度は各地区3回開催。
・WOODRISE 2021 KYOTO への参加 ・SDGs(環境)への取組 ・建築物木材利用促進法改正関連

第2号議案「令和3年度 収支決算に関する件」

事業報告に続き、第2号議案「令和3年度収支決算に関する件」が報告され、正味財産残高が344,149,661円になり、収支決算については前年比で65,769,660円増額である事などが説明された。第1号議案と第2号議案の審議を受けて監査報告が行われ、殿井一史監事より「厳正な監査を実施し、適正に執行されていることが認められた」との報告があった。この後、市川議長が2議案を諮り、原案通り全員一致で承認した。

第3号議案「役員の選任に関する件」

この後第3号議案「役員の選任に関する件」に審議が移り、新たな理事に(株)細田工務店 代表取締役社長 野村孝一郎、ミサワホーム(株) 取締役常務執行役員 新築請負事業本部副本部長 古屋保巳、東京ガス(株) 総合設備事業部長 吉村恒 が選任された。

令和4年度事業計画及び収支予算に関する報告

一般社団法人 日本木造住宅産業協会 役員名簿

令和4年5月26日現在

役員	氏名	主たる職業・役職	会員種別	備考
会長	いかわ 市 晃	住友林業株式会社 代表取締役会長	1種A	
副会長	中内 見次郎	ボラテック株式会社 代表取締役	1種A	
同	山崎 幸治	株式会社北洋建設 取締役最高顧問（九州支部長）	1種A	
同	大田 正則	大建工業株式会社 代表取締役 社長執行役員	2種A	
専務理事	越前 興一	常勤役員		
理事	宮沢 俊哉	株式会社アキュラホーム 代表取締役社長	1種A	
同	古川 浩	近鉄不動産株式会社 専務取締役 ハウジング事業本部長（近畿支部長）	1種A	
同	山口 信仁	サーラ住宅株式会社 代表取締役社長	1種A	
同	富山 肇男	三交不動産株式会社 常務取締役 戸建事業本部 本部長（中部支部長）	1種A	
同	豊田 治彦	積水ハウス株式会社 常務執行役員 ESG経営推進本部長兼渉外部長	1種A	
同	大友 清嗣	大和ハウス工業株式会社 取締役常務執行役員 住宅事業本部長	1種A	
同	佐藤 孝司	株式会社土屋ホーム 副会長	1種A	
同	河野 守	株式会社日本ハウスホールディングス 取締役日本ハウス事業部 本部長	1種A	
同	近藤 昭	株式会社松家住宅 最高顧問	1種A	
同	古河 潤一	古河林業株式会社 代表取締役社長	1種A	
同	野村 孝一郎	株式会社細田工務店 代表取締役社長	1種A	新任
同	古屋 保巳	ミサワホーム株式会社 取締役常務執行役員	1種A	新任
同	江井 政仁	株式会社えねい建設 代表取締役（静岡県支部長）	1種B	
同	中鉢 悟	株式会社中鉢ホーム 代表取締役社長（神奈川支部長）	1種B	
同	安田 正介	株式会社 サンゲツ 代表取締役社長執行役員	2種A	
同	喜多村 円	TOTO株式会社 代表取締役会長兼取締役会議長	2種A	
同	吉村 恒	東京ガス株式会社 総合設備事業部長	2種A	新任
同	島村 明	株式会社ノダ 常務取締役	2種A	
同	山田 昌司	パナソニック ハウジングソリューションズ株式会社 代表取締役 社長執行役員	2種A	
同	柳川 匡史	吉野石膏株式会社 常務取締役 営業統轄本部長	2種A	
同	高島 志	株式会社LIXIL 常務役員 特需事業本部 本部長	2種A	
同	堀 秀元	YKK AP株式会社 代表取締役社長	2種A	
(27名)				
監事	高橋 聡	株式会社一条工務店 執行役員 営業部部長	1種B	
同	井 史	ニチハ株式会社 取締役専務執行役員	2種A	
(2名)				

※（会員種別順 会社名五十音順）

定時総会では、引き続き越海専務理事が「令和4年度事業計画及び収支予算」を報告した。事業計画では、重要事項として「支部未設置地域への支部設置を促進し、本部支部連携の強化、充実を通じ、協会活動の活性化、会員サービスの向上を目指す。地方公共団体との連携を強化し、本部支部の役割分担のもと会員活動支援のためのプラットフォームを整備するとともに、引続き、災害協定締結の促進や木造応急仮設住宅供給体制の整備を図るなど、地域貢献の強化を目指す。併せて、循環型社会の実現に向け、環境に優しい木材利用や木造建築の推進を図り、SDGsの取組みとともに、以下の項目について取り組むこととする。」とし、7項目の事業計画を定めた。

令和4年度事業計画（抜粋）

①良質な住宅ストックの形成とリフォームの推進・低炭素社会の実現に向け、省エネルギー性能に優れた住宅の普及に努める。 ・「安心R住宅」制度及び「既存住宅状況調査技術者」講習を活用し、既存住宅の流通促進

とリフォームの推進に取り組む。

- ②木造住宅・建築物の普及促進 ・木造による耐火・準耐火建築物や中大規模建築物の普及に向け、高度な準耐火構造を含めた耐火構造等や高耐力耐力壁の検討、並びに中大規模建築物関連設計資料集の充実等に努める。
- ③広報活動の推進 ・小学生を対象とする「木のあるくらし」作文コンクールを継続実施し、「木」について広く一般に訴求する。
- ④人材育成の推進 ・木造ハウジングコーディネーター資格認定制度の充実及び普及を図る。 ・住宅税制、省エネ基準、スピードスケッチ、木造基礎知識等、人材育成に資する講習を積極的に実施する。
- ⑤良質な資材の普及と木造化 ・木質化の推進 ・快適な住生活、住環境に適した良質な資材の情報収集と普及の推進を図る。
- ⑥その他活動全般 ・倫理憲章及び環境行動推進宣言の普及、定着に努めるとともに、協会活動を通じて社会の認知度を高めるよう会員相互の協調を促す。

令和4年度功労者表彰式も開催

会員21社と個人17名の功績を顕彰



事業部門で受賞者を代表して表彰を受けるサーラ住宅株 杉本氏



業務部門で受賞者を代表して表彰を受けるニチハ株 山口氏

定時総会の終了後に、令和4年度功労者表彰式を行った。この表彰制度は、協会設立10周年の平成8年に制定され、事業部門で顕著な功績を挙げられた会員企業と、業務部門として本部・支部の運営などに顕著な功績のあった功労者を顕彰するもので、表彰会員企業（者）は先の理事会で承認された。昨今はコロナ禍で中止が続いていたが、3年ぶりに開催の運びとなった。

功労者表彰では、別表の通り、木優住宅事業で顕著な功績を挙げられた会員や、1時間耐火構造関係、省令準耐火構造関係、木造ハウジングコーディネーター関係などで貢献した会員企業21社が事業部門で表彰された。業務部門表彰では本部や中部支部、近畿支部、九州支部の運営などに尽力した17名を功労者として表彰した。

事業部門表彰では、受賞会員21社を代表して『木優住宅事業関係』と、『木造ハウジングコーディネーター関係』の2部門で受賞したサーラ住宅株式会社の杉本 佳亮氏に、業務部門表彰では、受賞者17名を代表してニチハ株式会社の山口 修氏に、市川会長が感謝状と副賞を授与した。市川会長は、「本業でみなさまお忙しいところを協会・会員のためにご尽力いた



受賞者を代表して謝辞を述べる サーラ住宅株 杉本氏

だいていることを改めて感謝いたします。これからも我々はよりよい住宅をお客様に提供しながら社会貢献に繋がっていく、そういった本当のSDGsを実現していける協会として、本部・支部の力を合わせて頑張っていきたいと思っておりますので、これからもますますのご活躍とご協力をお願い申し上げます。」と受賞会員と功労者を褒めたたえた。

これを受けて全受賞者（社）を代表してサーラ住宅株式会社の杉本氏が、「私は認定事業推進委員会の委員として自社の木優住宅の利用促進はもとより、会員のみなさまの普及促進活動とあわせ、瑕疵保険事故を無くすことを目標に、メンバーと共に活動させていただいております。委員会活動を通して、様々な気づきや有益な情報等を得ることができ、社内での現場力向上に役立てています。また木造ハウジングコーディネーターの資格は、社内の人材育成プログラムのひとつと位置づけ、若手社員の能力向上と自信につながり、ベテラン社員も再教育の場として活用させていただいています。近年はDX化の一環としてWEBでの講習及び試験に取り組んでいただいたことで、より便利に資格を取得することができ、大変ありがたく思っているところです。これまで以上に日本の住宅産業の業界のカーボンニュートラルの実現、SDGsへの取り組みの要となる木住協の皆様と一緒に、微力ながら尽力していく所存です。」と謝辞を述べた。

・・・功労表彰受賞者・・・

事業部門表彰

—木優住宅事業関係—

サーラ住宅(株)
クラシスホーム(株)
東宝ホーム(株)
(株)アールプランナー
(株)AVANTIA
(株)福工房
(株)ハウジング建部
加藤建設(株)
(株)創和技建
悠建築工房(株)

—1 時間耐火構造関係—

フジ住宅(株)
OU2 (株)
(株)ハセベ

—省令準耐火構造関係—

住友林業(株)
(株)日本ハウスホールディングス
アエラホーム(株)

—木造ハウジングコーディネーター関係—

サーラ住宅(株)
(株)エサキホーム
(株)オープンハウス・アーキテクト
(株)一条工務店

—委員会関係—

(株)カナイ

業務部門表彰(功労者)

—本部関係—

山口 修 (ニチハ(株))
松岡 浩二 (株)桧家住宅)
清水敬一郎 (東京ガス(株))
今井 淳一 (住友林業(株))
永野 龍博 (ケイミュー(株))
田村 明 (株)アキュラホーム)
外山 竜也 (大建工業(株))
澁谷 佑介 (YKK AP (株))
小長谷一樹 (株)日本ハウスホールディングス)
上田 学二 (三協立山(株))
南雲 政幸 (株)土屋ホーム)
森 剛二 (大建工業(株))
高木 恒明 ((一財)日本建築センター)

—支部関係—

中部支部 中江 一豊 (住友林業(株))
近畿支部 澤田 敏文 (南海不動産(株))
美濃部宗男 (大林新星和不動産(株))
九州支部 森下 仙次 (株)谷川建設)

理事会と記者会見も開催



第1 回理事会の様子

定時総会と功労者表彰を終え、明治記念館内の和風の設えが美しい「末広の間」で理事会を開催した。席上、新たに理事、監事に就任した方々を一人ずつ紹介した後、新年度に入って以降の事業執行状況が説明された。

さらに市川会長と副会長、専務理事、運営委員長、運営副委員長、各事業部員らが加わって、記者会見を開催した。冒頭市川会長は、木住協が本年4月で設立36年目となる旨を伝え、会員、関係各位への尽力に感謝を述べるとともに、『環境に優しい木』を活用し、我が国の地方創生にもつながる役割をも果たしていると木住協の活動意義を伝え、今後の取り組みへの一層の期待と支援を求めた。

また、「東京ゼロエミ住宅」基準多段階化の運用について、「住宅の省エネ性能確保に要求される水準1,2,3の性能が、木造の住宅と木造以外の構造でダブルスタンダードになっており、早急に同じ性能値への見直しを図るべきである」等の理由から、日本ツーバイフォー建築協会、JBN・全国工務店協会と共に東京都に申入れを行ったことを説明した。

質疑応答では、報道関係者からこの申入れの詳細についての質問や、近年のウッドショックによる影響、国産材利用に関する取り組みについて、東京都の太陽光パネル義務化案についての質問が寄せられ、木住協側が時間の許す限り各議題について説明を行った。



多くの記者が参加して行われた記者会見

WOODRISE 2021 BUSINESS SESSIONに 木住協が出展参加

国内外の中高層木造建築物に係る事業者等との意見交換、交流を図る

一般社団法人 国際建築住宅産業協会が主催する「WOODRISE 2021 BUSINESS SESSION」が、2022年5月22日～27日に東京都中央区のKABUTO ONEにて開催された。WOODRISEは中高層木造建築物発展のため、業界関係者が一堂に結集する国際交流イベント。第1回のフランス(2017)、第2回のカナダ(2019)に続き、第3回を日本の京都で昨年開催した。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で社交行事・テクニカルツアー等、一部プログラムが見送られたため、国内外の中高層木造建築物に係る事業者等の意見交換・交流の機会として、今回の「WOODRISE 2021 BUSINESS SESSION」が開催された。木住協もブースを出展し、貴重な国内外の関係者との対面での交流を果たした。



今こそ、地球温暖化抑止に向け結束の時。 中大規模木造建築の普及を通じた課題解決を

5月22日に開催されたSmall Expoに続き、23日には、開会式、B to B Meetingや講演が行われ、夕方からはガラディナーが催された。

開会式では、主催である一般社団法人国際建築住宅産業協会の矢野龍会長があいさつに立ち、昨年10月の京都大会ではコロナ禍にも関わらず800名を超える参加者があったと開催実績を報告するとともに、今回のビジネスセッション開催の経緯を説明。次回ウッドライズの主催国であるフランスからの視察団を中心に国内外から300名を超える参加者が見込まれていると述べた。また、昨今の世界情勢や、各種エネルギー価格や物価の上昇といった現状に触れ、今こそ地球温暖化抑止に向け結束を固める必要があるとし、中大規模木造建築の普及は、脱炭素社会の実現に資するとともに、自然由来で地域産の資源を利用することが、経済安全保障の観点でも極めて重要な取り組みであるとの考えを述べた。

そのうえで、WOODRISE KYOTOで得た最新の専門的な情報、企業団体の取り組みに加え、今回のビジネスセッションでも多くの知見を得て、今後の事業や研究開発に役立てていただきたいとの想いを語った。

続いて、フランス・ボルドー市長が来賓のあいさつを行い、急成長を遂げるボルドーにおいても、地元根付いた

持続可能な社会の構築や脱炭素への取り組みが主軸となっている現状を述べ、本大会で情報共有していきたいとの意欲を述べた。

WOODRISE 2021 BUSINESS SESSION 開催概要

- **会期**: 2022年5月22日～27日
- **会場**: KABUTO ONE
- **主催**: 一般社団法人国際建築住宅産業協会
- **プログラム**
 - 22日 Welcome Lounge & Small Expo
 - 23日 開会式・B to B Meeting・各種講演
ガラディナー
 - 24日～27日 テクニカルツアー

オリジナルムービー『木住協TV』や パネルで木住協の取組を印象的に訴求

本イベントでは、22日のSmall Expoと23日のB to B Meetingで、展示会場が設けられ、スポンサー企業・団体によるブース出展が行われた。

そのひとつとして、木住協も、22日、23日の両日ブースを出展。ブース内は、「木造の未来、拡がっています」をテーマに、木住協の技術を活かした中大規模木造実例の紹介や、木造を極める技術開発・研究、木造を広める普及啓発・広報、人を育てる人材育成といった木住協の取組を紹介

した壁面グラフィックと、オリジナル映像が上映されるモニター等で構成された。

モニターでは、ニュース情報番組風にまとめた『木住協TV “木住協のすべて”』が随時上映され、屋久島の新庁舎建設計画や、東京都のオーガニックカフェ、福島県の教育施設など、木



22日に行われた Small Expo での木住協ブースの様子



23日の B to B Meeting 会場での木住協ブース

住協の技術が活かされた各地の実例取材を交えながら木住協の取組を印象的に紹介し、来場者に訴求した。

B to B Meeting では、計13の企業・団体が出展し、各社の中大規模木造建築に関する最先端の情報が展示公開され、国内外からの多数の参加者たちが、さかんに情報交換や具体的な商談等を行い交流を図っていた。

国内外の具体的な取組の紹介を通じて最新の技術と知見の交換を

開会式が行われたメインホールでは、各国の企業・団体を代表するスピーカーが登壇し、テーマに沿った講演を行った。中大規模木造建築の普及をビジネスとして、社会の中で進めていくために、何が課題になり、解決に向けてどのような取組を進めているのか、という視点により、環境・経済・健康の3つのテーマが設けられ、『環境』については、

(株)東設計が組織設計事務所における脱炭素と木造木質化の取組を紹介。海外からは、カナダにおけるカーボンニュートラルな建物のケーススタディや、中国における現代木造建築技術と実践について、フランスからは中高層建築と気候変動の関係性などについて講演が行われた。『経済』については、(株)大林組や住友林業(株)が自社の中大規模木造建築の取組について説明し、カナダからはマスティンバーの実用化における国際協力についてや、フランスから低炭素社会を実現する素材としての木材についての講演が行われた。『人の健康』については、三菱地所(株)が自社の北海道の地産地消型中高層木造ハイブリッドホテルでの取組について説明。カナダからは木造建築がなぜ健康に良いのかについて、豪州からは健康的な職場づくりがもたらす経済的な意味について、フランスからは自国で進行中の木造建築の紹介といった講演が行われ、テーマごとに各国の最新の取組と優位性や課題等について知見が交換された。

24日から27日の4日間は、全6コースのテクニカルツアーを実施。東京周辺だけでなく、北海道や奈良など、日本を代表する木材の産地にあたる各種施設や工場、建築物等が紹介された。



国内外の関係者で賑わう B to B Meeting 会場



23日に行われたテーマ別講演の様子

令和4年4月5日 「住宅生産行政の最近の動向 ～カーボン・ニュートラルの実現に向けて～」について

国土交通省 住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室長 前田 亮 氏

資材・流通委員会(澤田知世委員長)は、令和4年度 第1回の「住まいのトレンドセミナー」を4月5日に Zoom セミナーとして開催し、国土交通省の前田亮・木造住宅振興室長が「住宅生産行政の最近の動向 ～カーボン・ニュートラルの実現に向けて～」をテーマに講演しました。

最初に、前田室長は現在に至るまでのカーボン・ニュートラルの流れを振り返りながら、現在の政府方針について説明を行いました。

まずカーボン・ニュートラルの流れのきっかけとなったパリ協定についてです。パリ協定は、先進国のみならずすべての国が参加する新たな国際的な枠組みの中で2016年に発効したもので、世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べ2℃より低く保ち、1.5℃に抑える努力を継続することを目標としています。

しかし、WMO(世界気象機関)とUNEP(国連環境計画)により1988年に設立されたIPCC(気候変動に関する政府間パネル)が、パリ協定発効後の2018年10月に「1.5℃特別報告書」を提出。同報告書では、1.5℃を大きく超えないためには、2050年前後のCO₂排出量が正味ゼロとなる必要があるという見解が示されました。

こうした状況の中で、日本では2020年10月に菅前総理が「2050年にカーボン・ニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」と宣言。そして、2021年の地球温暖化対策推進本部及び米国主催気候サミットにおいては、菅前総理はそれまで2030年度に温室効果ガス排出を2013年度から26%削減することを目指すとしていた中期目標を46%削減に引き上げ、さらに50%の高みを目指すと言いました。現在の政府の方針は、この宣言等に基づいたものになっています。

続いて前田室長は、「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等」について解説しました。

政府の地球温暖化対策計画においては、原油換算で、全分野合計して6,240万klを削減するという目標が定められています。そのうち建築物分野の削減目標は889万klとなっており、これは従来の計画に159万kl上乗せされた



講演をされた 国土交通省 住宅局 住宅生産課
木造住宅振興室長 前田 亮 氏

数字になっているといえます。

この目標に向け「建築物省エネ法」における規制措置が強化され、大規模な非住宅建築物にのみ課せられていた省エネ基準の適合義務が、令和元年の法改正で中規模の非住宅建築物にも拡大。また、小規模の非住宅建築物と住宅において、建築士から建築主への説明義務が課せられました。

さらに令和4年2月1日に、国土交通省内に設置された社会資本整備審議会が国土交通大臣に対し「脱炭素社会の実現に向けた、建築物の省エネ性能の一層の向上、CO₂貯蔵に寄与する建築物における木材の利用促進及び既存建築ストックの長寿命化の総合的推進に向けて」を答申しました。

この答申は、建築物の省エネ性能の一層の向上、CO₂貯蔵に寄与する建築物における木材の利用促進、CO₂貯蔵に寄与する既存建築ストックの長寿命化という3つの柱からなっており、2025年度以降に新築される、住宅を含む原則すべての建築物に省エネ基準への適合を義務付けることや、各種誘導基準についてZEH・ZEB基準の水準の省エネ性能に引き上げること、住宅トップランナー制度の対象に分譲マンションを追加し、住宅トップランナー基準を引き上げることなどが盛り込まれています。

次に前田室長が話したのが「木造住宅・建築物の振興・普及等について」です。前田室長は林野庁の資料を基に木材利用が地球温暖化対策においてどう位置付けられているかを解説。2030年度の森林吸収目標約3,800万CO₂トン(2013年度総排出量比2.7%)を達成するために、建築物における木材利用を促進し、木を「伐って、使って、植える」という循環利用を進める必要性について説明しました。

さらに、新築建築物に占める木造建築物の割合について説明し、非住宅の建築物や4階以上の中高層住宅において使用率を高めていく必要があると話しました。そして、この問題における国土交通省の取組を以下のように説明しました。

①規制の合理化

実験で得られた科学的知見等により安全性の確認等を行い、構造関係及び防火関係の規制を順次合理化する。

②先進的な技術の普及の促進等

中大規模木造建築物のプロジェクト等を支援。また、中大規模木造建築の設計に関する技術情報を集約・整理し、設計者へ一元的に提供する(ポータルサイトの開設)。

③住宅における木材の利用の推進

地域の中小工務店が資材の供給者等と協力して行う省エネ性能等に優れた木造住宅等の整備を支援。また、民間団体等が行う大工技能者等の確保・育成の取組を支援する。

前田室長は、こうした取組により平成30年に建築基準法が改正され、耐火構造とせず、木の「あらわし」とした木造の中層建築物の建築物が可能になったと説明。中層建築物の先駆的事例として、徳島県の「awaもくよんプロジェクト」を紹介しました。このプロジェクトは、法改正により可能となった設計手法により、主要構造部を「75分間準耐火構造」とすることで、木の「あらわし」による設計を実現するものだといいます。

続いて、前田室長は「令和4年度予算・税制」について解説。住宅関連・建築物カーボン・ニュートラル総合推進事業の内容について以下のように説明しました。

LCCM住宅整備推進事業

2050年カーボン・ニュートラルの実現に向け、住宅の脱炭素化を推進するため、先導的な脱炭素化住宅である

LCCM住宅の整備に対して140万円／戸を限度に支援を行う。

地域型住宅グリーン化事業

中小工務店向けの補助制度で、資材供給、設計、施工などの連携強化により、地域材を用いて省エネ性能等に優れた木造住宅(ZEH等)の整備等に対して140万円／戸を限度に支援を行う。

長期優良住宅化リフォーム推進事業

良質な住宅ストックの形成や、子育てしやすい生活環境の整備等を図るため、既存住宅の長寿命化や省エネ化等に資する性能向上リフォームや子育て世帯向け改修等に対して100万円／戸を限度に支援を行う。

住宅エコリフォーム推進事業(補助金)、住宅・建築物省エネ改修推進事業(交付金)

地方公共団体の取組と連携して既存の住宅・建築物の省エネ改修を効果的に促進するとともに、民間の取組を促すため、住宅について高い省エネ性能への改修を行う場合は、期限を区切って国が直接支援を行うことを可能とする。

また、フラット35S(住宅金融支援機構)についても、ZEH水準のものについて金利引き下げ幅を当初5年間0.5%、6～10年目を0.25%とするなど、拡充と見直しが行われたと解説。さらに、5000万戸を超える既存住宅の省エネリフォームを推進するため、法改定を前提とし低利融資制度を創設すると話しました。

最後は「**資材・設備関連**」についてです。

前田室長は、ウッドショックによる木材価格の高止まりが続いており、とくに中小工務店に対する影響が懸念されるとし、中小工務店でも活用可能な融資制度の相談窓口等の周知を行う、あるいは中小工務店が安定的な木材確保に向けた取組に対する支援の強化を行うなどの対応を行っていると話しました。

令和3年秋口から供給遅延が発生している給湯器やトイレについては、経済産業省とも連携しながら対応しており、これにより減少してしまったリフォーム需要をいかに元に戻すかが検討課題だとしました。

そして、ウクライナ情勢など不安定要素は多い中でも、住宅供給に影響がないような形で施策を進めていきたいと話し、講演を終えました。

資材・流通委員会 「住まいのトレンドセミナー」開催

東洋大学理工学部建築学科 浦江 真人教授が
木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査報告会を実施

資材・流通委員会(澤田知世委員長)主催による令和3年度第6回の「住まいのトレンドセミナー」が2月7日に開催され、東洋大学理工学部建築学科の浦江 真人教授が「木造軸組工法住宅における国産材利用の実態調査報告会」を実施した。

本調査は、わが国の木造軸組工法住宅における国産材や外国産材の使用実態を把握することを目的として、木住協の1種正会員を対象に令和2年度に関してアンケート調査をおこなったもので、アンケートを住宅供給会社473社に配布し回答していただいた。回答数は93(社)で、有効回答数は88(社)。有効回答率は18.6%だった。

調査の対象となった木造軸組工法住宅は48,921戸で、これは国交省の「住宅着工統計」における木造軸組工法住宅戸数365,464戸の13.4%にあたる。

なお、調査はプレカット会社に対してもおこなわれたが、今回の解説は主に住宅供給会社についてとなった。

浦江教授は、住宅供給会社が使用する木材についてのアンケート結果を解説。菅柱から羽柄材の合計では、国産材の使用割合は41.8%と過去最高の割合になったと報告した。

国産材の使用割合については、平成20年度が31.9%、平成23年度が28.7%、平成26年度が26.0%と徐々に減少していたが、平成29年度には37.6%となり11.6ポイント増加、今回はさらに4.2ポイントの増加が見られた。この結果に床・外壁・屋根の面材も含めると国産材の使用割合は48.5%となるが、これも過去最高の数字である。

続いて浦江教授は、樹種別のアンケート結果についても解説をおこなった。それによると、製材ではスギが14.9%、ヒノキが4.4%。集成材ではスギが9.9%、ヒノキが2.7%となっている。また、製材と集成材の比率をみると、製材が29.7%で前回と比べ2.3%減少。集成材も61.8%で2.1ポイント減少という結果であった。一方、その他(含LVL)が8.5%と、前回はほぼ2倍に増加。これについて浦江教授は、間柱においてLVLを含むその他の集成材の使用率が39.8%と、前回調査の10倍にまで増加したことが要因であると指摘した。



講演をされた 東洋大学理工学部
建築学科の浦江 真人教授

また、国産材の部位別の使用割合を見ると、床・外壁・屋根を合わせた面材が74.1%。土台が74.6%、大引が72.3%、羽柄材(間柱)が71.9%と、いずれも70%を超えている。一方、国産材の比率が低い部位は、横架材(9.2%)と筋かい(17.6%)である。浦江教授は、全体の国産材使用率を上げるためには、こうした部位での使用を増やしていく必要があると述べた。

さらに、浦江教授は住宅供給会社の木材の調達や、国産材の使用、ウッドショック、環境対策といった多岐のテーマにわたるアンケート結果について解説。住宅供給会社が購入した材でJAS材の割合が大幅に減少していることや、同一品目で購入先が複数ある場合の選択理由として、「安定供給」を挙げる会社が78.7%と最も多かったことなど、興味深い結果が多く見られた。

そして最後に浦江教授はプレカット会社のアンケート結果にも触れ、住宅供給会社と比較・考察をおこなった。そのなかで浦江教授は、住宅供給会社の国産材比率(菅柱から面材まで)が48.5%なのに対し、プレカット会社では34.1%で大きな差があると指摘。これについては、会員の住宅供給会社はプレカット会社が納入している住宅会社よりも規模が大きく、また国産材使用に対して意識も高いため、積極的に国産材の利用を増やしていると考えられると述べた。

10月18日「木造住宅の日」記念イベント

第25回「木のある暮らし」

作文コンクール募集のご案内

(一社)日本木造住宅産業協会は、今年度も小学生などの児童を対象にした作文コンクールを開催いたします。

本作文コンクールは、当協会が「木の家は人や地球環境にやさしい」ということを訴え、脱炭素社会や、環境・社会が抱える問題に取り組むSDGsの実現を目指す活動の一環として、毎年10月18日の「木造住宅の日」にちなんで開催しており、今年で25回目を迎えました。

テーマは「木のある暮らし」とし、対象となる国内外の児童のみなさまに暮らしのなかで見つけた木や木でできたものについて、感じたことを書いてもらうコンクールです。

今年も優秀作品には、国土交通省、文部科学省、農林水産省、環境省、外務省の大臣賞をはじめ、種々の表彰を設定するとともに、応募いただいたすべての皆様に参加賞(かわくと木になるねんど)を贈呈いたします。

これからの世代を担う児童のみなさまに、この作文コンクールを通して、脱炭素社会・SDGsの実現に貢献する「木のある暮らし」の素晴らしさや意義深さを見つめ直し、自らの言葉で表現していただくことで、地球環境やこれからの社会の大きな課題について、実感を持って学んでいただける絶好の機会になると考えております。

第25回 木のある暮らし 作文コンクール

まわりにある木のことを作文にしてみよう

作品まつるよ!

応募期間 2022年6月1日(水)→9月6日(火) 消印有効

応募資格 ●低学年の部・小学1～3年生 ●高学年の部・小学4～6年生 (5年生にこれに準ずる学年・年齢)

発表 ●木住協ホームページおよび朝日小学生新聞紙上で発表! ●表彰式 2022年10月29日(土)14:00～(オンライン開催予定)

参加賞! かわくと木になるねんど

国土交通大臣賞・文部科学大臣賞・農林水産大臣賞・環境大臣賞・外務大臣賞ほか、多くの賞があります。受賞者には賞状と図書カード(副賞)を用意しています!

一般社団法人 日本木造住宅産業協会 主 催: 一般社団法人 日本木造住宅産業協会 後 援: 国土交通省・文部科学省・農林水産省・環境省・外務省・住宅金融支援機構・朝日学生新聞社

https://www.mokujukyo.or.jp/ 木住協

会員企業の皆さまには、自社の店頭やモデルハウス内に開催告知ポスター類を掲示し、来場者や見込み客の児童たちに作文コンクールの応募へのPR活動をお願いいたします。

応募要項

【応募期間】

2022年6月1日(水)～9月6日(火) 消印有効

【応募資格】

- 低学年の部・小学1～3年生
※ならびにこれに準ずる学年・年齢
- 高学年の部・小学4～6年生
※ならびにこれに準ずる学年・年齢

【応募方法】

- ① 学校単位で郵送
- ② 個人で郵送
- ③ パソコンやスマホでメール応募

【発表】

2022年10月29日(土)に木住協のホームページおよび朝日小学生新聞紙上で発表

※入選者の方には事前に直接ご連絡いたします。

【表彰式】

2022年10月29日(土)14:00～(オンライン開催予定)
※受賞者の方には学校経由でのご連絡、また個人応募の方へは直接ご連絡いたします。

脱炭素社会・SDGsの実現を考えるきっかけに

本件に関する問合せ先

一般社団法人 日本木造住宅産業協会内
「木のある暮らし」作文コンクール事務局
TEL.03-5114-3015

応募について詳しくはこちら
<https://www.mokujukyo.or.jp/lifewithwood/concour/>





木造ハウジングコーディネーター

木住協NOW
連載

奮闘記



「テキストと出会えて 幸運だった」と語る (株)オープンハウス・アーキテクトの 加藤孝彰さん

他業種から建築に関して全く無知な状態で住宅業界に飛び込み新入社員の研修業務をおこなうことになったら、何をどう学ばいいだろう。今回取材をさせていただいた株式会社オープンハウス・アーキテクト(本社=東京都中野区、日高靖仁社長、1種A正会員)の人材開発部人材戦力化グループ係長の加藤孝彰さんのそんな悩みを軽くしてくれたのが、木造ハウジングコーディネーター資格試験のテキストだった。加藤さんは、自らの知識習得と新人研修にテキストを有効利用し、これまで多くの新入社員や中途採用の社員を育成。同社の定評ある人材育成プログラムの礎を築いてきた。また、加藤さんははじめてとなる更新講習を今年受講し、見事に合格。「時代とともに変化する技術や新しい潮流について学ぶことができる講習には意義がある」と答えてくれた。

前職では、学習塾の業界で働いていた加藤さん。しかし、しばらく働いているうちに漠然とだが将来への不安を抱くようになったという。同じ日々を繰り返すだけで、これ以上学ぶものがないのではないかと、そう思ったときに新しい世界へのチャレンジ精神が湧いてきたのだそうだ。

「住宅業界、建築業界は全くの未経験でしたから、最初は選択肢の中にありませんでした。しかし、いろいろと話を聞いてくれていた転職支援会社の方から、こんな会社があるので受けてみないかといわれ、軽い気持ちでした」と加藤さん。最初に驚いたのは、同社の代表取締役社長である日高靖仁氏の熱量の高さだったという。

「この会社に入ったのは、社長の人柄に魅かれたからです。最初は圧倒されましたね。ここは多分普通の会社ではないんだろうと思いました。もちろん、いい意味ですが(笑)。いろいろなしなみがあったり階級主義が残っていたりする会社は多いと思いますが、この会社はそうではない。やりがいがあると感じたんです」

そうして加藤さんは2017年の4月にオープンハウス・アーキテクトに入社。イメージした通り風通しのいい社風の中で、忙しい日々を過ごしている。

建築のことを何も知らない状態で 新入社員の研修を行うことに

「新入社員の研修業務を行うということで入社しましたが、正直いって建築や住宅については完全な素人でした。そのような自分が研修業務を行うのは不安でしたし、すぐに建築業界の高く厚い壁に当たりました。それが建築に関する知識なんですが、何をどこまで知ればいいのか、全くわからないというのが難しかったですね。しかも数ヶ月後には研修を始めなければいけないという状態で、非常に焦っていました」と当時を振り返る加藤さん。学ぶ意欲は大いにあったが、何を教科書にして学ばいいのかわからないのが辛かったそうだ。

しかし、そんなときに当時の営業部の人から教えてもらったのが、木造ハウジングコーディネーター資格試験の存在だった。当時見たのは古いテキストだったが、それでも読んですぐに「これは役立つ」と感じたという。

その後、木造ハウジングコーディネーター資格試験のテキストに加えて市販のテキストも買い漁って読み込んだ加藤さん。徐々に知識が身につき、研修業務の内容をブラッシュアップしていくことができたという。ちなみに、当時研修を受けた側の人によると、当時加藤さんが「建築のど

素人」だとは夢にも思わず、あとで聞いて非常に驚いたそう。

「今の研修内容は、本当にゼロの状態からひとつずつくり上げてきたものです。無知だった私が人に建築を教えなくてはならないとなったときに、木造ハウジングコーディネーターのテキストに出会えたことは本当に幸運でした」と加藤さん。このとき一生懸命に学んだことは、いまの研修内容にも存分に活かされているという。

最新の情報を学べてありがたかった 木造ハウジングコーディネーター更新講習

もちろん、加藤さん自身も2018年に木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験し合格を果たしている。また、今年は更新講習も受講した。

木造ハウジングコーディネーターの資格は、資格取得後、初回が3年後、それ以降は5年ごとに更新が必要となる。加藤さんにとってはじめての更新試験だったが、どういった形式で行われるかがわからず「少しドキドキしました」というが、結果は見事に合格。満点ではなかったことが少し残念だったようだ。

「今回の更新講習では最新情報がデータになっていたのととても見やすく、勉強になりました。最新の情報をひとつひとつ自分でチェックして学ぼうとする人は多くないと思いますが、こうやって講習や試験を受けることで世の中の流れの変化にも対応でき、非常にありがたいです。それに更新講習の料金は3000円ですが、こんな立派なテキストまでいただけるなんてお得ではないでしょうか」

ここで、これまで木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験する新入社員と多く接してきた加藤さんに、資格試験についての要望もうかがってみた。

「そうですね。木造ハウジングコーディネーター資格試験が非常にいいと思うのは、非建築系の方に対してもわかりやすく知識を網羅的に載せてくださっているところだと思います。ですがその前段階、本当に建築に関して何も知らない文系の人に向けた内容のもっとやさしい建築書があると、教える側としてはうれしいですね。あとは問題集をデジタル化していただけると、通勤時などにスマートフォンで見ることができていいと思います」

会社の全員が前を向いて 仕事ができる環境をつくりたい

数年前の加藤さんの1日のスケジュールはこうだ。

出社後、最初にその日の研修業務の段取りを再確認。

抜けや誤りがないか、やっておかなければいけないことがないかを入念に確かめたうえで、研修で使う機材や資料のセッティングに取り掛かる。そして、準備ができたら研修をスタート。用意した資料を見ながら自ら講習を行う。

18時までの講習後は翌日の準備。ときには夜遅くまで仕事が続くこともあったようである。

「最初は研修業務を1人でやっていたので、正直大変でした。資料の準備などがぎりぎりになってしまうことも多くあり、迷惑をかけてしまったこともあります。そこは反省材料ですね。でも、いまは部署に人が増えたので、しっかりと対応できていると思います。現在は、自分は新人の研修ではなく中途採用の方の研修を主に行っています」

中途採用の方への研修は新人研修とはまた違う難しさがあるという加藤さん。その人の性格を把握することが必要で、「自分自身で自覚できるように」一人一人に合わせた言い方で、現場に出る前に覚えてほしいことや伝えるべき部分をソフトに伝えているという。

最後に、これからの目標を聞いてみると、今後の研修体制のさらなるブラッシュアップだと答えてくれた。

「この会社で今後仕事をしていく人が、不安やストレスを感じることなく前に向かって邁進していける環境を整備していきたいと思っています。研修については、もちろん自分自身にも足りていない部分がたくさんありますが、それぞれの人が伸ばしたい思うところをしっかりとバックアップしていきたいと思います」と加藤さん。加えて「プライベートでの目標は、無病息災。最近では食事の栄養バランスを考えて自分で料理をするようになりましたし、お酒も控えるようになりました」と笑顔で話してくれた。



木造ハウジングコーディネーター試験 成績優秀者表彰

上位得点者7名の表彰式および記者報告会をオンラインにて開催

木住協は、2021年度木造ハウジングコーディネーター資格試験で、特に優秀な成績で合格した7名を称える成績優秀者表彰式をオンラインにて開催した。21回目となる今回の資格試験にあたっては、前回に引き続き新型コロナウイルスによる状況を鑑みて、WEB講習会の実施や、全国34都道府県107ヶ所に設置されたテストセンターにおけるPCデジタル試験が導入された。表彰式には、そうした環境の中でも試験に挑み高得点を獲得した、(株)吉田産業の山下俊幸さん、(株)オープンハウス・アーキテクトの佐藤亮太さん、山口葉奈さん、松崎光希さん、(株)一条工務店の吉田一樹さん、(株)アキュラホームの山口菜々子さん、城東テクノ(株)の菱谷雄介さんの7名がリモートで参加し、合格の喜びと今後の意気込みを語った。

理想の住まいをコーディネートできる、住宅建設に係わる営業職・設計職を育成し、木造住宅業界の発展に寄与することを目的として平成13年にスタートした資格制度。

表彰式では、初めに越海専務理事が挨拶に立ち、「366名の皆さん、合格おめでとうございます。この2年間、コロナでコミュニケーションが取りづらい時期が続き、仕事を進めるのがなかなか難しかったと思います。その中で本資格を受験し、住宅業界共通の知識



ホスト会場となった東京・六本木の協会事務局の様子



開会の挨拶をする
越海専務理事



概要報告をする
青木研修部長

基盤として、同じテキストで学び、同じ試験を受けた仲間を得て、コロナ禍でも意思疎通が図りやすい環境の土台が築けたのではないかと期待しております。今後とも仲間意識をもって仕事を進めていただければと考えております」と祝辞を述べた。

受験者数は昨年より大幅に増加 デジタル試験も受験者に好評

続いて、青木研修部長より試験の概要が報告された。今年度の合格点は400点満点中274点以上(かつ営業編140点以上、技術編126点以上)となった。受験者数は485名と昨年より12%増と大幅に増加。うち366名が合格し、合格率は75.5%と1.3%低下した。青木研修部長は「受験資格は18歳以上という年齢制限のみでオープンな制度であるため、引き続きPRを増やして認知度を高め、受験者数を増やしていくことが課題」とコメントした。

ちなみに試験会場において行ったアンケートでは、試験方法について「紙よりもPC試験の方がよい」と回答した受験者は72.7%にも及び、「どちらでもよい」と回答した人も含めると94%の受験者が好意的な回答を示した。

経験6年以上の受験者の割合も増加

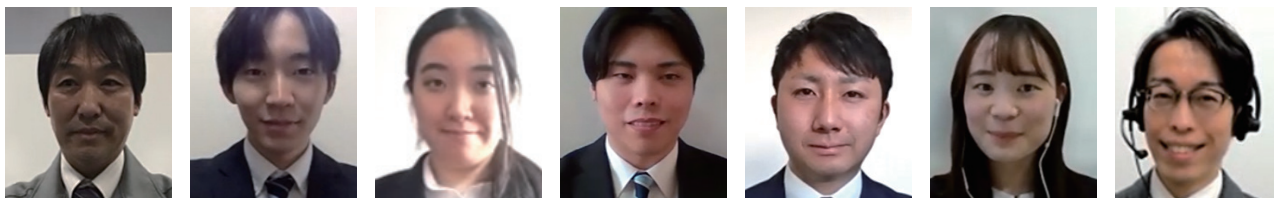
入社3年未満の若手の方が多く受験する本試験だが、経験6年以上の受験者の割合も昨年の8.7%から12.7%へと増加している。青木研修部長は「本テキストは、基礎の知識から最新の情報まで網羅しており、中堅以上やベテランの方にとっても、歯ごたえを感じていただける内容となっております」と述べた。

喜びと感謝に満ちた受賞者の声

その後、越海専務理事より成績優秀者が高得点順に発表された。オンラインのため、事前に各参加者の手元に届けられていた表彰状と認定証を掲げながら表彰を受けた後、受賞者全員が合格の喜びや今後の意気込みを語った。

●(株)吉田産業 山下俊幸さん

「トップというのに驚きました。知識の底上げとして、今回挑戦させていただきましたが、このような結果になり、うれしい想いでいっぱいです。提案力が求められる住宅業界になっておりますので、学んだことを役立てていきたいです」



表彰された成績優秀者の皆さん。左から(株)吉田産業の山下俊幸さん(396点)、㈱オープンハウス・アーキテクトの佐藤亮太さん(395点)、山口菜奈さん(392点)、松崎光希さん(392点)、(株)一条工務店の吉田一樹さん(393点)、(株)アキュラホームの山口菜々子さん(392点)、城東テクノ(株)の菱谷雄介さん(392点)

●(株)オープンハウス・アーキテクト 佐藤亮太さん

「結果が出て、驚きとともに先輩や同期への感謝を感じました。先輩方に模試の結果を褒めていただき、非常にやる気が出たのを覚えています。同期とはアドバイスをし合い、切磋琢磨して勉強に励むことができました」

●(株)一条工務店 吉田一樹さん

「住宅知識を総合的に学べる良い機会になりました。試験に出題されなかった内容も、テキストにより深い内容が掲載されておりますので、資格取得だけに留まらず、今後の業務にも活かせるように、繰り返し学習を行いたいです」

●(株)アキュラホーム 山口菜々子さん

「このような形で表彰していただけたとは思っていなかったの、すごく驚きました。まだまだ自分の中では、きちんと知識など身につけていない状態だと思っておりますので、今後の業務などで活かしていけるように、これからも勉強に励んでいきたいです」

●城東テクノ(株) 菱谷雄介さん

「部材メーカーとして、お客様の仕事に理解を深めることで、より喜んでいただける商品の開発や情報発信をしていこうと受験しました。建築知識だけでなく、法律や木造住宅の社会的意義、業界の歴史的背景、住まい手の方への接し方まで含め、総合的に学習することができました」

●(株)オープンハウス・アーキテクト 山口菜奈さん

「上位成績者を目標に勉強していたので、表彰されて本当にうれしいです。建築の知識は全くなく、内定後も不安だったので、入社前から計画的に勉強できるテキストをいただけて、とても励みになりました。入社後もストイックな姿勢を忘れずに学び続けたいです」

●(株)オープンハウス・アーキテクト 松崎光希さん

「8月に手術を必要とする怪我をして、2ヶ月間ほど入院していました。その際に病院にテキストを送っていただき、空いた時間でコツコツと勉強できたことが高得点につながりました。また、会社で実施された模試で本番を想定しながら勉強できたことも一つの要因だと思います」

数が非常に多い中、どのように勉強を行ったのか」との質問が投げかけられた。勉強時間帯については、「仕事終わりに毎日少しずつ」「休みの日にまとめて」「電車の移動時間」「研究室での装置の待ち時間」など、受賞者によって様々。勉強法について、山口菜々子さんは「過去問題集を中心に、分からなかった所をテキストや動画で見直す」という方法を実践したとのこと。一方、山口菜奈さんは「建築の知識がなかったので、じっくりテキストを読んでから3回くらい復習しました」と回答した。

部品メーカーの立場から見た試験内容

また、越海専務理事から、(株)吉田産業の山下さんと城東テクノ(株)の菱谷さんに、「部品メーカーとして試験にどんな印象を持ったか」との質問が上がった。山下さんは「ビルダーさんが求めている商材を把握するために、住宅全体のことを知りたいということがあります。非常に幅広い分野のテキストなので、いろんな提案や相談に活かせるのではないかと思います」とのこと。菱谷さんは「お客様を総合的に知るということで、大変に学び深いテキストだったと感じました」と語っており、改めて幅広い層にとって意義深いテキスト内容・資格試験であることが垣間見られた。

今後も注目される家づくりのコーディネーターとして

最後に村岡業務・広報委員長から、閉会の挨拶が述べられた。「コロナ禍で働き方や生活が一変したことで、家づくりに対するニーズがより鮮明になったと感じています。これまでにないほど、住まいが注目されているのではないのでしょうか。国策として、家づくりを後押しし、2050年のカーボンニュートラルにも資する、こどもみらい住宅支援事業などもスタートしています。この試験で培った様々な知識を身につけた、木造ハウジングコーディネーターとして、自信をもってお客様の家づくりに取り組んでいただきたいと思います」と若い受賞者達へのエールが送られた。



審査調評をされる
上杉審査委員長

勉強時間の確保や勉強法 についての質疑応答

審査委員長の東洋大学名誉教授・上杉啓先生からは、「テキストが厚く問題



オンライン上で外部記者を招いての質疑応答の様子



閉会の挨拶をする
村岡業務・広報委員長



木造ハウジングコーディネーター資格試験の活用例

株式会社オープンハウス・アーキテクト 人材開発部

新人育成プログラムに採用

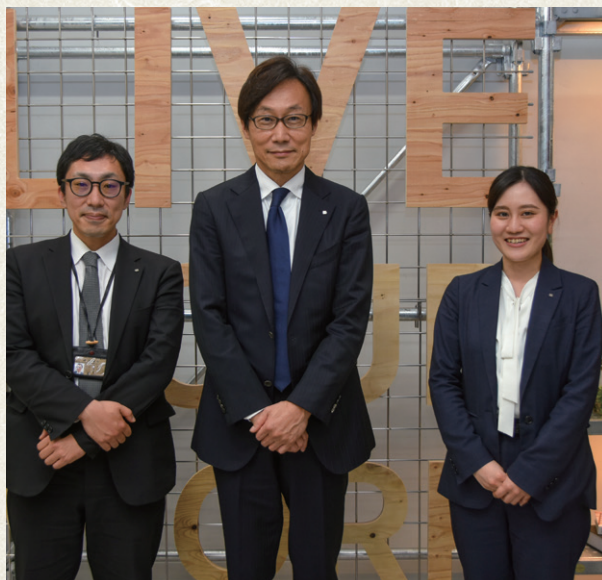
2020年度、2021年度の木造ハウジングコーディネーター資格試験において、数多くの合格者、成績優秀者を輩出している株式会社オープンハウス・アーキテクト。同社は、資格試験を新人育成プログラムの一環に取り入れ、非建築系学生の内定者に資格試験を受験してもらうという方法を実践。その結果、新入社員をわずかな期間のうちに現場で活躍する人材に育て上げることに成功している。合格者、成績優秀者を多く輩出できる理由はどこにあるのか、そして、木造ハウジングコーディネーター資格試験をどのように活用しているのか、同社に話を伺うとその理由が明らかになってきた。

株式会社オープンハウス・アーキテクトは本年度63名の新入社員を採用したが、そのうち非建築系出身者が53名と8割以上にのぼる。新人育成に力を入れる同社では、内定段階から学生に対するフォローアップを行っており、建築系出身者に対しては、二級建築士資格取得を目指した学習を推奨。一方、ほとんど建築に関する知識を持たない非建築系出身者に対しては、木造ハウジングコーディネーター資格試験に向けた学習を推奨し、建築に関する基礎知識を学ぶことで、入社後よりスムーズに研修や業務に取り組むことができるようにしている。

「新人育成プログラムの一環として木造ハウジングコーディネーター資格試験を活用させていただくという試みを、2020年度より始めました。新入社員には入社後の4月から6月初頭まで導入研修を受けてもらうのですが、その前段階として資格試験を受験させています。この時点で建築の基本を学ぶことは、導入研修の素地づくりという点で役立ちます。しかも、合格という目標があると学習に身が入りやすいですし、資格を取得できれば彼らにとって大きな自信ともなります。木造ハウジングコーディネーター資格試験を新人育成に活用するという試みは、効果を上げていると感じています」と人材開発部の山口さんは話す。

きめ細やかな学習サポートが 高い合格率を生む

このプログラムの一環として、今春入社した非建築系出身者の53名が木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験、そのうち9割近くが合格するという好成績を収めている。こうした合格率の高さは、もちろん受験者のモ



取材に応じてくださった、(株)オープンハウス・アーキテクトの加藤孝彰さん（左）、山口等さん（中）、加藤暁子さん（右）

チベーションの高さと努力によるものだが、加えて同社の充実したバックアップ体制も大いに役立っているようだ。

同社では、内定者に初夏の段階で資格試験についてのアナウンスを行い、10月の内定式後に資格試験の説明会を開催。12月の試験に向けて勉強会や質問会を設け、わかりにくいところを解説したり、定期的に模試を実施するなど、内定者の学習をきめ細かくサポートしている。

「われわれのようなハウスメーカーでは、建築系の学生を多く採用するのが普通だと思いますが、非建築系を多く採用して鍛え上げていくというのが当社の特徴です。そうすると、われわれのやるべきことが増えるのは当然だと考えています。学生が未経験の分野への挑戦に対して不安を感じるのは当たり前ですし、資格試験のテキストは結構なボリュームがあるので、それを見て建築って難しいも



新人育成プログラムについて語る山口さん

のなんだとハードルの高さを感じる人も多いようです。しかし、そこを乗り越えて自信につなげてもらえるよう、しっかりサポートしてあげたいと思っています」(同氏)

また、入社後の導入研修は建築系・非建築系を分けずに行っているため、研修スタートの時点で非建築系の新入社員は建築系の新入社員との差を感じてしまいがちだが、入社前に建築の知識を学んでおくことで、その差を埋めることができることも大きなメリットだという。自信をもって入社でき、建築系出身者に対し大きな差がないと感じられれば、モチベーションが上がるのも必然だろう。

木造ハウジングコーディネーター資格試験の有効活用でスムーズに研修に入れる

同社では、新入社員は入社後およそ2ヶ月の導入研修を経て、建築系・非建築系出身を問わず全員が現場監督として施工現場に配置される。短い期間で多くを学び現場の最前線に立つためにこの導入研修が果たす役割は非常に大きい。

そこで同社では5つのステップからなるカリキュラムを実施。まず同期の仲間づくりや社会人への意識転換を行うのが最初のステップで、主体性、チームワーク、考え抜く力といった社会人としての基礎力を身につけたうえで、建築に関する基礎知識や自社の仕様・商品知識を習得。さらに監督業務の理解と実践、といった流れで工事担当業務の知識とスキルを

積み上げていく。

「わずか2ヶ月あまりの間に、現場に着任してスムーズに業務が進められるようにすることが私たちの責任です。そのために、カリキュラムのうち建築に関する基礎知識の部分については木造ハウジングコーディネーター資格試験を利用させていただいているというのが今の形です。資格試験のこうした形での活用は今回で2回目となりますが、やはり入社した時点で建築知識がゼロの真っ白な状態か、一通り知識があるかでは大きく違うと感じています。導入研修では資格試験の復習のようなところからスタートするのですが、建築に関する名称を知ってくれているだけでも、こちらとしては非常に研修をすすめやすいですね。」(同氏)

今後も資格試験の活用を継続。 新人育成に役立てる

新入社員が入社時点である程度の知識を身につけており、戸惑うことなく業務に取り組める。また、教える側の労力や時間を削減できるというのは、新入社員にとっても企業側にとっても大きなメリットといえるだろう。

「試験の合格者は、配布される名刺に木造ハウジングコーディネーターの資格保有者であることを記入していますので、新入社員の皆さんには配属後ぜひ有効に活用してもらいたいと思っています。今後もこの取り組みを続けさせていただく予定です」(同氏)

株式会社オープンハウス・アーキテクトの来年度の内定者目標は110名。これまでと同様に非建築系卒業者が多く全体の約8割を占める予定だということで、受験者はさらに増える見込みだ。資格試験を上手に取り入れた新人育成の成功例として、今後も大いに注目を集めそうである。



内定者が資格を取得することで、入社後の研修にスムーズに入れるという



新入社員の現在の心境を聞く

(株)オープンハウス・アーキテクトの新人育成プログラムの一環で、昨年度の木造ハウジングコーディネーター資格試験を受験し、優秀な成績を収めて合格した佐藤亮太さん、松崎光希さん、山口菜奈さん、荻谷優里さん。この春、満を持して同社に入社し、現在は新人研修が始まったばかりという4名に、資格試験の感想や現在の心境を聞いた。わずか2ヶ月後の6月には全員が現場監督として現場に出る予定だが、さすが資格試験で優秀な成績を収めた4人だけにやる気十分で研修に臨んでいる様子。資格試験で学んだことも大いに役に立っているようだ。今後の活躍が期待される4人の明るい笑顔は、同社のこれからを象徴しているようだ。



まず、内定後、木造ハウジングコーディネーター資格試験に挑戦することになったときの心境をお聞かせください。

松崎さん 私は文系出身ということもあり、やはり建築の専門的な知識を学ぶということに不安を感じました。ですが、会社のサポートがあったので徐々に不安も消え、頑張ってみようという気になりました。

佐藤さん 私は何かしなければならなかったと思ってたところでもうこの話をいただいたので、この勉強をすればいいんだと明確化されて非常に楽になりましたね。

山口さん 最初は難しそうで怖いと思いましたが、話をした先輩方が学びたかった内容だとおっしゃっていたので、取り組もうという気持ちになりました。

荻谷さん 私も佐藤さんと同じように、入社するまでにやることははっきりしたことは本当にありがたかったですね。

資格試験に向けて、どのような方法で勉強をなされたんでしょうか？

松崎さん 単元ごとに読んで問題集を解いてみて、できなかったところはまた見直してということ、理解できるまで何回も繰り返しました。

佐藤さん 私は想定問題集が中心。問題集で答えが○のところはテキストを黄色に塗り、×のところは赤く塗り、×のところがなぜそうなるのかというのをひとつひとつ確認するようにしました。

山口さん まずテキストを読んで、そのあと問題集に取り組みました。テキストの問題集にあった部分に線を引き、そこを覚えるようにしました。

荻谷さん 私は想定問題集を何周かして、何回も間違え

たところをノートにまとめました。これはテスト前にパッと見られたのでよかったです。

どんな時間を使って勉強なされたんですか？また、苦勞した部分などあればお聞かせください。

松崎さん 私はテキストが届いたのが柔道でケガをして入院しているときだったので、その間1ヶ月以上コツコツと勉強しました。

佐藤さん 卒論の研究の時期と被っていたので、実験装置の冷却期間だったり、シミュレーションを回している最中などのすき間時間をうまく使って勉強するようにしました。

山口さん 私は技術編が難しく感じられて苦勞しましたね。営業編はすらすら読めたんですが、慣れない技術の話に時間がかかってしまいました。

荻谷さん 私も技術編が難しかったですね。理解するのが難しく先に進めず焦りました。

資格試験で学んだことは役立ちそうですか？改めてテキストの内容をどう思いますか？

松崎さん 研修が始まったばかりですが、その中でこれは勉強したなということがたくさん出てきて、やはりやってよかったなと感じています。

佐藤さん 入り口として非常によかったと思います。ただ、用語の読み方がわからないものがあって、それを調べるのが大変でした。ユーチューブで建築の動画を見て調べたりしましたね。

山口さん 確かに読み方は難しいですね。あとは、もう少し図版があるとわかりやすいのかなと思いました。

荻谷さん いま受けている研修は資格試験で覚えたことの深掘りのようだと感じていて、ここはこういうことだったん

だと思ふことも多いです。単語を覚えておるおかげで、頭にすんなり入ってくるのがあるがたいです。

みなさん優秀な得点で合格しましたが、周囲の方から何かいわれたりしたことはありますか？

松崎さん 家族からは、頑張ったねという言葉をもらいました。採用担当の方から「合格してくれて本当にうれしい」といっていただいたのも感動しました。

佐藤さん 私も同じで、家族や採用担当の方に喜んでもらえてよかったと思いました。

山口さん 私は内定者のチャット上に高得点者として名前を載せていただいて、それをみた同期がおめでとうと連絡をくれたことが一番うれしかったですね。

荻谷さん 私もチャットに高得点者として載せていただきましたが、おかげで私がとてもがんばっていたようなイメージがついてよかったです(笑)。

1年目は全員が現場に送り出されるということですが、それについてはいかがですか？

松崎さん いきなり現場の監督をやるというので最初は不安でしたが、500時間の研修でそのための勉強をみっちりやるのでいまはがんばろうという気持ちになっています。

佐藤さん 営業になってお客様に家を売るときでも、人から聞いたよさではなく自分でつくってみてわかるよさを説明できるので、自分はとても魅力的な仕組みだなと思っています。いつか自分に子供ができたとき、自分で家をつくったんだといえるのもうれしいです。

山口さん 私はこの仕組みがあったからこの会社に入ろうと思ったんです。私は最終的に営業職につきたいと思っていますが、施工監督をしてから営業になれるという会社はほかにありませんでしたから。

荻谷さん いま学んでいることを、すぐ6月から現場で実践できるというのがいいですよ。現場に出ることで、早く

成長することができますから。

いまは入社されて日が浅いですが、研修はいかがですか？

松崎さん まだ始まったばかりですが、こんなに知らないことがあるんだと感じています。でも、だからこそこれからがんばろうというポジティブな気持ちになりました。

佐藤さん 私はすごく楽しさを感じています。大学では超電導というどこに使うかわからないような勉強をしていたので、建築という自分の身になっていくものを学べるのが非常に楽しいです。

山口さん 同期のみんなと会ったら優秀な人がたくさんいて刺激を受けています。先輩方や上司の方からの期待に応えようとがんばっているみんなの姿を見て感化され、私も必死に学んでいるところです。

荻谷さん 6月から現場に出るにはいま聞いていることを全部覚えておかないといけないと思って、とても焦っています(笑)。

最後に今後の目標をお聞かせください。

松崎さん 個人的なことですが、幸せな家庭を築きたいです。そのために仕事をきっちりこなしてお金も稼ぎたい。子どもには不自由のない生活をさせたいですから。

佐藤さん 僕も同じことです。25歳までに結婚をして30歳までに家と子どもを持つと決めています。

山口さん 私は、まず施工監督として一棟しっかり完成させること。あとは年収一千万円を目指しているのもうくじけそうですが(笑)、それを目指してがんばろうと思います。

荻谷さん 私も幸せな家庭を築きたいと思っていますので、そのためにお金をしっかり稼ぎたいと思っています。ただ、お金さえあればいいわけではなく、やりがいのある職場で一生懸命働いて、いきいきと暮らしたいと思っています。



左から荻谷優里さん、山口菜奈さん、松崎光希さん、佐藤亮太さん



入社1年後に思うことは

(株)オープンハウス・アーキテクトに昨年入社した篠本寛太さんと藤川真優さん。お二人は同社の新人育成プログラムの一環として、学生時代に木造ハウジングコーディネーター資格試験に優秀な成績で合格し同資格を取得している。現在、篠本さんはOHD推進部OHD千葉施工グループ、藤川さんは関西事業部関西施工グループにそれぞれ所属。入社わずか1年しかたっていないにもかかわらず何十棟もの建築現場を担当するなど、すでに業界の第一線で活躍中だ。入社1年間どのような仕事をしていたのか、そして、木造ハウジングコーディネーター資格試験で学んだことは現在の業務にどう役立っているのか、前途有望なお二人に率直に話をしていただいた。

入社してからの1年間を振り返る

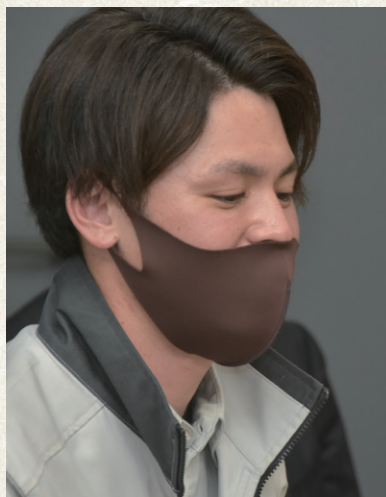
2020年度木造ハウジングコーディネーター資格を取得してから1年間、お二人はどう過ごされていきましたか？

篠本さん 現場監督として、毎日現場を巡回しています。配属されてから30棟、現在は18棟の現場を動かしています。現場を回るのは苦ではないのですが、思っていたより事務仕事が多く、それが大変だと感じています。

藤川さん 私の今の配属は関西事業部です。関東にいたときは私も現場の巡回や事務処理が多かったのですが、関西はまだ進出したばかりで物件が少なく、新規の業者さんに弊社のマニュアルを周知するなど打ち合わせが主な仕事になっています。現場は、以前は15棟くらい担当していたのですが、いまは8棟ですね。

1日の行動を教えてください。

篠本さん 自分は朝からしっかりと動きたいタイプなので、定時前に事務所に行って事務処理などを済ませ、それから



各地にある現場に向かっています。今は現場が少し遠い千葉の柏にもあるのですが、そういう場合でも同様です。そして、現場での仕事を終えたら事務所に帰り、作業をして帰るのが19時半くらい。土曜に現場に出るこ

ともありますが、必ず振替休日を取るようにしています。

藤川さん 関西ではまだそれほど現場が動いていないことと、自分で週に10時間以上は残業をしないと決めているので、18時から20時の間に帰宅するようにしています。



木造ハウジングコーディネーターの活用方法

木造ハウジングコーディネーターの資格試験で学んだことは現在の仕事に生かされていますか？

篠本さん 試験を受ける前には、テキストをかなり読み込みました。正直、今となっては覚えていないところもたくさんあるんですが、それでも木造住宅の施工を行う上で基礎知識の部分をしっかり学べたのは本当によかったと実感しています。現場に行って何もわからない状態からスタートとはならなかったのが助かりました。

藤川さん 専門用語を学べたのは本当によかったですね。現場で何か聞かれても、初めて触れる言葉ではないので慌てずに済みました。資格を取得したことで知識を得られたし、自分の自信にもなりました。名刺に「木造ハウジングコーディネーター」と印刷されていることがうれしいです。

反対に、これは今のところ必要ないと思うような内容はありましたか？

藤川さん テキストの始めのほうで法律に触れている部分がけっこうあったんですが、そこは今の業務ではあまり使うことがありません。実は法律関係は受験するときにとっても苦戦した部分だったので、なくてもよかったのにと少し思っていました(笑)。

篠本さん 確かに法律関連はあまり使いませんね。法律上の数値は一般的なものとしてももちろん覚えておくべきことだと思いますが、われわれは自社のマニュアルを使用していますから。弊社のマニュアルでは、法律で定められている最低限の数値よりかなり高めの数値を規定値としているので、法律上の数値を使うことがないんです。

藤川さん もっと簡単に振り返りができるようなテキストがあるとうれしいです。今のテキストはかなり大きくて持ち運びがしにくいので(笑)。

篠本さん 確かにそうですね。単語帳とまではいなくても、小さいポケットサイズのものがあれば助かります。大工さんにいわれる専門用語がわかるような、専門用語のダイジェスト版でもいいと思います。

藤川さん アプリだったらなおうれしいです(笑)。スマートフォンだったらその場でパッと見れますし、行き帰りの電車の中でも見えますから。

お二人の今後の活躍に期待！

お二人の今後の仕事での目標を教えてください。

篠本さん 社内の表彰制度にある新人賞を狙っていたのですが、残念ながら遠く及ばない数字でした(笑)。なので、次は監督のランキングというがあるのでそこで1位を取りたいと思っています。そのために今年の9月までに40棟以上は手掛け、年間で50棟くらいはがんばってやりたいと思っています。

藤川さん 私は会社から棟数を求められたら、必ずそれより多くの棟数で返したいと思っています。関西はこれ

から急速に物件が増えると思いますが、対応できる自信はあります。求められた分は確実にこなして、さらにそれ以上の結果を出していくつもりです。また、今後後輩もできる予定なので、しっかり業務を伝えられるようにしたいと思っています。

プライベートでの目標を教えてください。

篠本さん 今の目標は、お金を貯めて車を買うことですね。自分は趣味が多くて、夏はダイビング、冬はスノーボード、あとはダーツとかいろいろやるので、今後も充実させていきたいです。仕事をすればそれだけ報酬もいただけると思っていますので、まずは仕事に一生懸命取り組んで結果を出していきたいです。

藤川さん 私もお金は貯めたいですね。私は海外旅行が大好きでよく行っていたのですが、コロナ禍でしばらく行けていません。コロナ禍が収まったらたくさんの国を訪れようと思っています。



日本の世界遺産 探訪

MT.FUJI



「富士山—信仰の対象と芸術の源泉—」は、2013年に日本で17件目の世界遺産に登録されている。富士山は、標高3776メートルの日本最高峰の活火山で、極めて秀麗な山容を持つ霊峰として崇拝されてきた。今回の世界遺産探訪は、信仰の対象であるとともに芸術の源泉として、日本人の自然観や文化観に大きな影響を与えてきた「富士山」についてご紹介しよう。

山梨県 静岡県 富士山

古えより信仰の対象として深く崇拝されてきた富士山

富士山は、周囲を睥睨するように雲より高く聳え立つ独立峰であり、裾野にいくにつれ緩やかになる均整のとれた円錐形の山容は、古えより日本人の心を魅了してきた。

はるか太古から活発な火山活動を繰り返してきた富士山は、永く山麓から山頂を仰ぎ見て崇拝する「遥拝」の対象とされてきたが、やがて

噴火が鎮まると平安時代から中世にかけて山岳信仰と外来の仏教が習合した修験道の場所として、多くの修験者が厳しい山道を攀じ登って山頂をめざす「登拝」修行が行われた。

やがて、登山道が開かれ施設が整備されると、御師

(修験者)に導かれて一般の人でも山頂に登るようになり、江戸時代には富士山信仰が隆盛を究めて「富士講」と呼ばれる大規模な登拝活動が組織されるようになった。こうした富士登山への人気は明治近代以降も絶えることがなく、現在でも、毎年7月上旬から9月上旬までの夏の登山時期になると、山頂で御来光を拝んだり、噴火口周囲を一周するお鉢巡りをしたり、たくさんの登山者で賑わっている。

また、富士山の麓に点在する浅間神社、富士山の噴火でできた堰止湖である富士五湖、富士山の伏流水の湧出地である忍海、海岸の松原越しに見る富士山が美しい三保松原といった名勝地も、世界遺産の構成資産として登録されている。

富士山は日本人の心に深く根付いた文化創造の源泉

富士山の魅力といえば、春は桜に彩られ、夏は濃い緑にふちどられ、秋は紅葉に映え、冬は雪化粧され、四季折々に変化するその姿であろう。こうした富士山の壮大な美しさは、日本人の心に深く根づき、文化創造の源と

なってきた。

奈良時代に編纂された日本最古の歌集「万葉集」をはじめ「古今和歌集」「新古今和歌集」にも富士山を詠んだ和歌は多数載せられている。「百人一首」にも選歌されている奈良時代の歌人山部赤人の「田子の浦にうち出でてみれば白妙の富士の高嶺に雪は降りつつ」などはその代

表作である。絵画では、鎌倉時代の「一遍聖絵」(一遍上人絵伝)、室町時代の雪舟筆「富士三保清見寺図」、そして江戸時代の葛飾北斎「富嶽三十六景」など、時代を通して富士を描いた作品は数多い。明治以降の近代文学でも、夏目漱石「三四郎」には上京する主人公が汽車の車窓から富士山を眺める有名な場面がある。また、昭和の文豪太宰治の「富岳百景」は富士山を題材にした作品で「富士には月見草がよく似あふ」という有名な句が記されている。



世界遺産「小笠原諸島」登録概要

構成資産：富士山域、山頂の信仰遺跡群、大宮・村山口登山道、須山口登山道、須走口登山道、吉田口登山道、北口本宮富士浅間神社、西湖、精進湖、本栖湖、富士山本宮浅間神社、山宮浅間神社、村山浅間神社、須山浅間神社、須走浅間神社、川口浅間神社、富士御室浅間神社、御師住宅、山中湖、川口湖、忍野八海、船津胎内樹型、吉田胎内樹型、人穴富士講遺跡、白糸ノ滝、三保松原

所在地：山梨県富士吉田市・身延町・鳴沢村・富士河口湖町・山中湖村・忍野村・静岡県静岡市・富士宮市・富士市・裾野市・御殿場市・小山町

記載年月日：平成25年(2013年)6月

区分：文化

登録理由：1. 一国の文化の基層を成す「名山」として世界的に著名であり、日本の最高峰を誇る秀麗な成層火山であること。
2. 信仰の対象と芸術の源泉として、また、文学の諸活動に関連する文化的景観として世界的な意義を持つこと。

「木住協の森」活動報告

九州支部は、木材に係わる事業に携わるものとして、養林整備支援活動を通じて地域の皆様に少しでもお役に立ちたいとの思いから「いきいき森の探検隊」の活動を続けてまいりました。2012年からは福岡県甘木地区の「緑の応援団」の活動に参加し、甘木の森で整備活動をしてきましたが、2017年の九州北部豪雨による河川の氾濫や土砂崩れによって、朝倉市の山間部を中心に崩壊箇所が多数あり、林道が寸断され森林に入ることができない状況で、甘木地区での活動はいまだに再開されておられません。また、2年間のコロナ禍による活動停止もあり、今年やっと5年ぶりに「いきいき森の探検」の「木住協の森」の活動として再開することができました。

今回は、佐賀県の鳥栖市にほど近い基山の森林で、NPO法人がいろいろ基山の活動に参加しました。4月16日(土)8:00現地集合、福岡、北九州、佐賀、熊本から39名の参加がありました。

竹林の放置による森林の荒廃は現在全国的に問題となっていますが、基山一帯でも同様の問題を抱えています。かいろう基山は竹を伐採して跡地に広葉樹を植林し、荒れていた森(③)を整備して美しい森(①、②)を復活させる活動をしています。また、伐採した竹はチップ状に加工(⑦)し、地域の牛を飼育する酪農

家に分けて牛舎の敷き藁の代わりに利用してもらい、牛

糞と混ざったものを譲り受けて、自分たちで作った竹炭と混ぜて堆肥を作っています(⑧)。堆肥は野菜農家に分けて肥料として使ってもらいます。竹の循環システムです。また、この堆肥は完全熟成していてもおいもなく、生ごみを混ぜれば完全に分解してしまう優秀な生ごみ処理剤となります。竹の伐採だけでなく、廃材から有益なものを作り利用する多様な取り組みはまさにSDGsに合致する活動で、とても勉強になりました。

活動は約3時間、竹林の整備と、竹チップづくりのための竹割作業にしっかり汗をかきました。

来年にはあまぎ緑の応援団の活動再開の可能性もあると聞いていますので、活動可能な地域で、地域に貢献する木住協として活動を継続していきたいと思います。



④～⑥ 活動状況

コロナ禍克服後の支部地域発展に期待

初蝉の声きく頃となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

おかげさまで、四国支部では、特に大きな災害も無く穏やかに初夏を迎えています。今回の支部だよりは、当支部を取り巻くマーケット状況についてご紹介しましょう。

大きな災害がなかったものの 厳しいマーケット状況続く

世界に目を向けますと、ロシアによるウクライナ侵攻、近隣諸国では日本の安全保障を脅かすような動向が目につく日々となっています。

またそれに伴う物価の上昇等、我々を取り巻く社会環境の急激な変化に戸惑う状況が続いています。そして、未だにコロナ禍がおさまることのない状況に、罹患者の方々には心よりお見舞い申し上げるとともに、人命救助のためにわが身も顧みず奮闘されている医療従事者の皆様には深く感謝申し上げます。

2022年上半期の四国地方を振り返ってみますと、特に大きな災害はなかったものの、厳しいマーケット状況が続いています。

もともと大きなマーケットではない地域ではありますが、そこに所得が増えない中で物価上昇の波が、消費意識の低下を招いている感は拭えない状況です。

一刻も早く大規模な財政出動による地方のデジタルインフラ整備や経済活性化を行政には是非お願いしたいと思っています。

人流抑制緩和とともに 支部活動の本格的再開に 取り組みたい

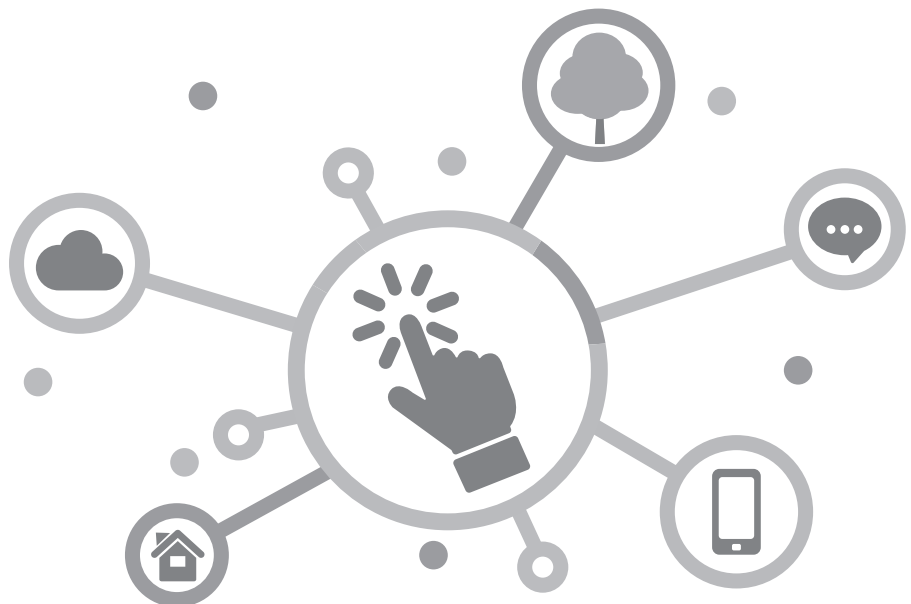
四国支部の活動ですが、コロナ禍の中、思うような活動もできず、会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております事、心よりお詫び申し上げます。コロナの収束はおそらく今後もないと思われます。よってwithコロナの考え

方がより一層進んでくると考えられます。社会状況が人流抑制等の緩和へと進んでまいりましたら、支部活動の本格的な再開を実行していきます。

現在四国支部として取り組んでいきたい事が頭を駆け巡っているところです。是非支部の皆様と密な情報のやり取りをしながら、支部地域の発展に取り組んで参りたいと、改めて考えているところです。

最後になりますが、四国支部につづき中国支部が発足すると伺っております。中国支部の発足のお喜びを心より申し上げますとともに、発足間もない四国支部と中国支部が連携し、木住協のより一層の活動強化に寄与していきたいと考えます。今年の後半からは何とかコロナウィルス感染症を克服し、会員の皆様と共に地域発展のため様々な活動に取り組んで参りたいと考えています。会員の皆様には、より一層のご指導とご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

2022年も残り半分となりましたが、大災害等の発生がなく平穏な日々が続く事を祈念し、ご挨拶とさせていただきます。



資材・技術委員会主催 第1回商品技術勉強会 “木”で備える「応急避難施設」の实地研修と 和歌山の“知”を集めた歴史的木造建築を訪ねて

3年間、待ち望んだ「商品技術勉強会」が5月25日(水)、時機を得てようやく実施となりました。マスク越しにもあふれる笑顔で、会員各社から16名が参加。今回の勉強会のメインは会員会社の国土建設株式会社が開発した木製の「応急避難施設」で、本棚が緊急時には応急的な避難生活の場に変容するというアイデアです。実際の組み替え作業も見ながら防災に活かす“木”の役割を学びました。続いて、重要文化財「旧和歌山県会議事堂」と明治の旅館建築「葛城館」の2件の歴史的木造建築の研修見学を行い、往時の知恵と技術に強い関心が寄せられました。

国土建設株式会社「身近に備える応急避難施設」 木の特性を活かして学生とのコラボで実現 安全・利便性と癒しの空間

創業以来40余年、優れた紀州材を生み出す林産地・和歌山で「木の家づくり」に着目しながら独自の木材乾燥窯を開発するなど、常に「木」にこだわったチャレンジを続けてきた国土建設株式会社が、



瀧 敏秀社長



国土建設株式会社本社屋

2018年に完成させた木製の応急避難施設が今回の第一の研修となります。

ピンクやイエロー、グリーンを配したひときわ目を引く本社屋の外観からも「地域に親しまれ、住宅のことなら何でも相談できる明るい会社」という代表取締役・瀧敏秀氏の思いが伝わってきます。研修ではまず瀧社長が「人々の意識がコロナ禍に集中している間にも、東南海地震は着実に近づいてきます。起こってからでは遅い。緊急時にも“木”でお役に立てることがあるはず!という気づきから

このプロジェクトが始まりました」と開発の動機を語られたあと、経営企画部の有村翼部長から完成までの経緯がプレゼンテーションされました。それによると…。

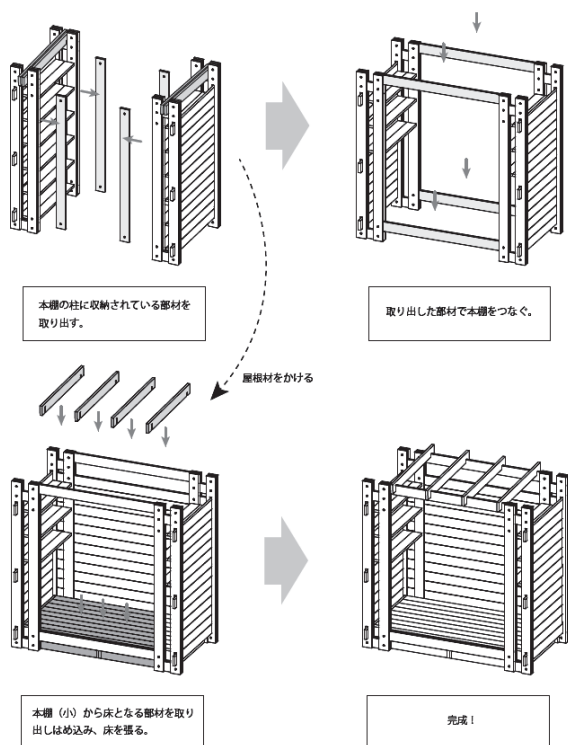
「これまで繰り返されてきた大震災の避難生活で、特に子どものいる家族の避難生活は困難を極め、周囲への気遣いもあって精神的負担が大きいことが分かった。そのような家族が安心して避難できる施設としての条件は、まず構造や運搬が簡易で素早く組み立てられること。そして少しでも精神的なストレスを軽減できること」が重要と考え、

国土建設では滋賀県立大学の建築学科・高田豊文教授と環境デザイン学科・金子尚志准教授の協力を得て、学生を対象にコンペを行うこととしました。そこには“阪神・淡路大震災を体験していない世代”への意識喚起の意味もあったと言います。

学生たちからはユニークなアイデアが多く寄せられましたが、そ



「身近に備える応急避難施設」のプレゼンテーション



の中でも斬新だったのは「もともとそこにあるものが避難施設に変身すれば運搬の手間もいらず素早く対応できる」という発想。早速、会社の方で具体的な構造が検討されて完成したのが、木製の本棚を組み替えて“家族の空間”を作り上げる「身近に備える応急避難施設」でした。実際にどのような仕組みなのか？ 研修では国土建設の工場内で、完成状態から本箱に組み替える作業を見学しました。

木材はすべて赤松や和歌山産の紀州杉の無垢材が使われ、不自由な避難生活の中、子ども連れであることでさらに負担が大きくなる家族にとって、この木の香りと触触は大きな癒しになると、参加者の皆が実感できました。また床や背板はたわみ防止のため30ミリの厚みがあり、躯体は六角レンチで固定されています。組み立てには2～3時間を要するとのことでした。参加者がそれぞれ施設内に

入って構造や居心地を確かめた後、作業者3人によって解体が行われ、約30分で4個の本棚（高さ／約110cmと約220cmがそれぞれ2個）に“変身”しました。

「一般の人でも組み立ては可能ですが、やはり練習が必要です。災害が起きてからでは遅いので、今のうちに学校や図書館などに設置できるように働きかけていきたい」と自ら開発に携わった管理部・伊藤隆博部長は力説します。

このように国土建設と滋賀県立大学の環境デザイン学科が共同開発した「身近に備える応急避難施設」は、2018年の「ウッドデザイン賞」「キッズデザイン賞」「レジリエンスアワード／強靱化大賞」の3つの賞を受賞しました。中でもキッズデザイン部門では「子連れの避難生活に想いを馳せ、心理的負担を抑え、いかに早急に避難施設を実現するかを考え抜いた秀逸なアイデアであるとともに、学生によるコンペとしたことで若者の震災への認識を高めた」として「審査委員長特別賞」が授与されました。

勉強会では避難施設の研修後、国土建設のショールームを見学。敷地内に建てられたモデルハウスの木造軸組みを再現した模型や、多様な無垢材をシーン展示した「こだわりの小径」、本格的な和室や無垢材をふんだんに使っ



木の香も芳しい避難施設を実地体験



避難施設から本棚への組み換え作業



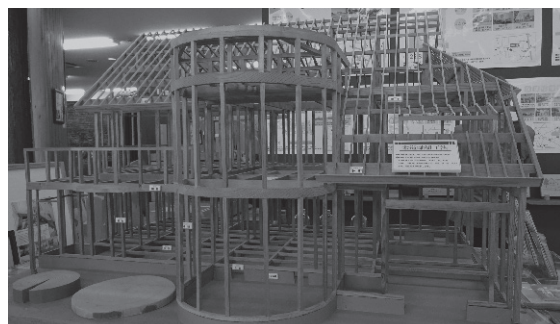
4個の本棚に組み替え完了

たりピング、耐震・免震・制震の3つをかなえる“三防震の家”スーパージオ(SG工法)の施工例や、緊急地震速報受信機も設置されています。この受信機は震度3以上の地震が事前に予知され、地震が発生する以前に館内に地震発生のアナウンスが流れる仕組みで、「地域住民皆さんの安全を守るための備えも完備しています」と伊藤部長は国土建設の地域防災にける熱意を

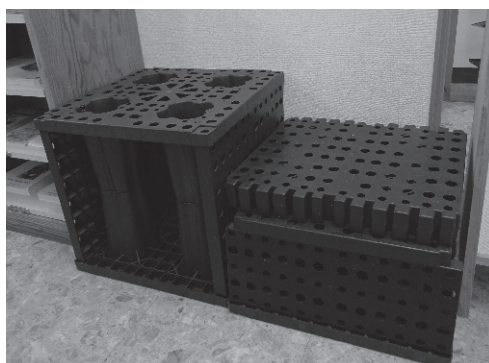


敷地内に建設されたモデル住宅

語られました。今回の勉強会では日常生活から防災、震災時の避難施設まで、地産地消の無垢材を軸とした国土建設の家づくりを興味深く拝見することができました。



モデル住宅の軸組模型

自社開発の木材乾燥窯
水分4%まで乾燥させる

スーパージオ工法の提案コーナー



さまざまな木に触れられる「こだわりの小径」

重要文化財「旧和歌山県会議事堂」

現存する最古の木造和風意匠に見る
県政と“木の職人”の心意気

第2の研修地は新義真言宗総本山・根来寺の広大な敷地内に威風を誇る「旧和歌山県会議事堂」。ボランティア

ガイドさんの熱のこもった説明を聴きながら、修繕と移築を繰り返しながらも往時の建築様式と技術を今に伝える貴重な文化財をつぶさに見て回りました。

県会議事堂が最初に建設されたのは明治31年(1896)、和歌山城の東側でした。木造2階建ての瓦葺屋根で建築

面積は1,239㎡。当時「壮麗な白木の建物」と評されました。その後2回の移築を経て現在の岩出市根来寺に再構築され、平成24～27年度(2012～15)の保存整備事業によって免震構造を施されたうえで建設当時の姿が復元されました。できるだけ当時の姿を遺そうと、柱などは「目違い継ぎ」「三味線継ぎ」など伝統的な修復技術が施され、参加者は細部にまで興



旧和歌山県会議事堂の外観

味深く観察の目を配っていました。

議事堂は本館、議場、控室の各部に分かれています。圧巻は、梁間18メートルに及ぶ吹き抜け大空間の議場。洋式のトラス組みで支えられています。天井は中央を音響に考慮した折上格天井、周囲を鏡天井とし杉材が使われています。2階には議場を取り巻く傍聴席が設けられ、議員席は馬蹄形に設置されて、活発な議論が闘わされていたことが想像されます。また議場には唐破風をもつ「床の間」



巧みな修繕が施された柱に触れて歴史を実感

が設けられ、彫工・大窪嘉輔の手によるという見事な彫刻が施されるなど、明治の議会政治黎明期の心意気を感じさせるものでした。



当時の議会風景の再現模型。議員席は馬蹄形に設置されている



華麗な彫刻が施された正面車寄せ



折上格天井や傍聴席などの説明を聴く参加者



唐破風の床の間を配した大空間の議場

明治の旅館建築「旧葛城館」

高野参詣の拠点として栄えた高野口町に
5代の当主に守り抜かれた木造建築

往時の姿を遺す木造のJR高野口駅の前身は紀和鉄道名倉駅。当時、高野山参詣の客で賑わい駅前には十数件の旅館が立ち並んでいたといえます。その中で現存する唯一の旅館建築が「旧葛城館」です。現在は営業されていませんが、平成24年(2012)に5代目当主・大矢裕氏によって保存修理が行われ、正面に瓦葺の千鳥破風と銅板葺の唐破風を重ねた入母屋造り、木造3階建ての明治後期の旅館建築を今に伝えています。

研修では当主の由美夫人の説明で各部屋を巡りながら、民間の手でこのような歴史的建造物を守っていくご苦労などもお聞きすることができました。建物の正面が総ガラス張りというのも見事です「破損しても今では替えがない手作りのガラスなので、日頃の手入れや台風の時の防御には神経を使います」と由美夫人は話されました。特に老朽化による建物の傾きを修正する難しさなど参加者は興味深く耳を傾けていました。

3年ぶりに実施された商品技術勉強会は、若者の発想を取り入れた斬新な避難施設から重要文化財の議事堂、民間の手で守り抜かれた明治の旅館など、時代を超えて多様多彩に展開される木造建築への感嘆の声とともに終了しました。



旧葛城館の外観



すべての部屋に床の間が設けられている



保存修理を経て手入れの行き届いた旅館内部を見学



広い玄関で葛城館について説明される当主夫人



往時の姿を遺す木造の高野口駅

コロナ禍で商品勉強会をWEBセミナーにより実施

初夏の候、会員の皆様にはここ数年来の厳しい状況下にあつて日々の活動に取り組まれていることと存じます。

中部支部におきましても、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って、昨年に引き続きバス見学会、研修視察旅行、賀詞交歓会、講演会といった支部行事の大部分が中止となりました。

今回の支部だよりは、こうした中でWEBセミナーとして実施された商品説明会についてご報告いたします。

2021年秋に実施されたWEBセミナー

商品勉強会につきましては、株式会社鶴弥様、ニチハ株式会社様、チヨダウテ株式会社様、大建工業株式会社様、TOTO株式会社様、服部猛株式会社様の二種会員6社にご協力をいただき、WEBセミナーとして実施いたしました。

セミナー第一弾は、昨年10月25日に開催された株式会社鶴弥様による「陶版壁材スーパートライWall」の製品紹介でした。陶土を高温の窯で焼き締めた自然素材の壁材で、焼き物ならではの自然な風合いと高級感が特徴で、施工例を含めてわかりやすく解説いただきました。

翌10月26日には、ニチハ株式会社様による「木造外壁耐火構造ニチハサイディング」の製品紹介が行われました。木造利用推進の見地から共同住宅、学校、老健施設などで天然木による外壁材の利用が増えており、不燃塗装や不燃処理など木造耐火構造の外壁加工技術についてご説明いただきました。

次いで11月5日には、チヨダウテ株式会社様より「安全・快適な住空間のための石膏ボード」の製品紹介が行われました。磁石のくっつく石膏ボード「MAG+ボード」、防火性と防水・防カビ機能の「外壁下地用面材ボード」、ビスで留め付けるだけパテ処理不要で出隅が作れる「出隅専用コーナーボード」などの提案がありました。

2022年春に実施されたWEBセミナー

本年2022年に入って、2月17日に、大建工業株式会社様による「テレワークスペースの気になる音を快適に!」

オンラインセミナーが開催されました。テレワークや巣ごもり需要で増えている住宅の中での防音事例の紹介とその対策方法について、音の基礎知識から提案手法に至るまでわかりやすく解説しました。さらに、3月11日、TOTO株式会社様による「海外ホテル／住宅からみる水まわりトレンドセミナー」がオンラインで開催され、海外ホテル／住宅の最新事例が報告され、TOTO新製品が紹介されました。

3月25日には、服部猛株式会社様による「外壁下地のこれからの選び方」セミナーが開催され、透湿防水シートの役割や最新の透湿防水シートの傾向が紹介され、目的に合わせた商品のラインアップが提案されました。

今回のWEBセミナーにつきましては、視聴者数の定員割れ、各社申込方法が異なるなど、様々な問題点がありましたが、皆様のご協力をいただき、無事に開催することができました。今後は、これらの問題点を改善して視聴者数をアップしていきたいと考えています。



神奈川支部の応急仮設関連の動き (2021年4月1日～2022年3月31日)

当支部では2019年4月1日付で神奈川県、救助実施の3政令都市（横浜市・川崎市・相模原市）と当支部、5者間で「災害時における木造住宅応急仮設住宅の建設に関する協定書」を締結している。これにより応急仮設住宅の供給に関する事前対策検討業務委託等の具体的な取り組みを協業している。

◇2022年5月14日

神奈川県主催の「民間団体同士の連携（民民連携）に関する研究会（建設関係）」に参加
一般社団法人6社および国・県・政令指定都市の担当者と災害時における建設団体・事業者間での連携および他業界との連携について意見交換を行った。

◇2021年9月18日

神奈川県と令和3年度建設型応急住宅の供給に係る事前対策検討業務委託を締結。
早期着工可能地の事前調査業務等の委託を神奈川県より受けた。

◇2021年10月7日

令和3年度応急仮設住宅建設にかかる事前準備業務委託を横浜市と締結。
早期着工可能地の事前調査業務等の委託を横浜市より受けた。

◇2021年10月15日

神奈川県の業務委託地（三浦市）1ヶ所を現地調査。

三浦市内某所を早期着工可能地として、現地調査をおこなった。

◇2021年11月15日

横浜市と候補地1か所の事前調査を現地で実施。
横浜市内某所を早期着工可能地として、現地調査をおこなった。

◇2021年11月26日

横浜市と候補地2か所の事前調査を現地で実施。
横浜市内某所を早期着工可能地として、現地調査をおこなった。

◇2022年 1月31日

横浜市に令和3年度委託業務完了通知書を提出。
11月15日・26日の事前調査業務を元に、横浜市へ完了通知書を提出した。

◇2022年2月24日

神奈川県と令和3年度建設型応急住宅の供給に係る事前対策検討業務意見交換会（ZOOM 会議）に参加。
10月15日の現地調査を元に、意見交換を行った。

◇2022年3月11日

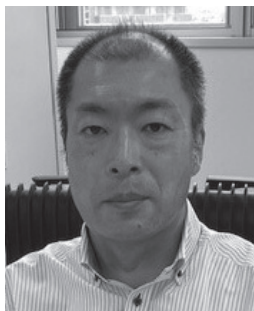
神奈川県へ令和3年度建設型応急住宅の供給に係る事前対策検討業務委託に関する報告書を提出。
10月15日の現地調査および2月24日の意見交換を元に、神奈川県へ完了通知書を提出した。



三浦市内某所を現地調査

新支部長紹介

北陸支部と神奈川支部の支部長が交代し、北陸支部長に竹中克拓・大建工業(株)北陸支店長が、神奈川支部長に福田健作・ナイス(株)執行役員事業開発部部長、グループ会社・スマートパワー(株)の代表取締役がそれぞれ就任した。2人の新支部長に今後の支部運営や抱負を語ってもらった。



会員相互、他団体との コミュニケーションを 大切に

北陸支部長に就任した
竹中 克拓(たけなか・よしひろ)氏

竹中・新支部長は大学を卒業後、大建工業(株)に入社。現在は北陸支店の支店長として、商品を流通業者に卸す仕事をしている。「私は入社以来営業で、初めはシステムキッチン等の住設製品を扱う事業部に配属になり、その後岡山支店、近畿支店兵庫営業所、そして2011年に北陸営業部金沢営業所に配属されました」と話す。大阪府高槻市出身。単身赴任12年目で、神戸に奥様と娘さん2人、猫1匹の家族がいる。

北陸支部の現状を聞いてみると、「北陸支部は設立3年目で、当初は様々な計画がありましたが、新型コロナウイルス

の影響で会員相互の交流や会話ができず、活動も止まっている状態でした。コロナが落ち着いてきた今、会員の皆様と接触する機会、対面で会う機会、対話する機会を作っていくことが私の一番の仕事だと思います」と意欲を見せる。人との接触は仕事だけではないと言う。「ここのご飯屋が安くておいしかった、あそこの景色がとても綺麗だった等の普段のコミュニケーションから始まって、最終的に仕事につながっていけばいいと思います」と、人と接することを大切にする営業の顔が垣間見えた。

北陸支部は、今まで北陸全県合同での活動ができていないことも課題の一つだという。「石川県は特殊事情があり、石川県独自の団体があります。そういう事情から石川県は木住協の加盟が少ない。今後は他の団体とも交流しながら、輪を広げていくことも大事だと思っています」と解決策を語る。

最後に、「会員の方々に、木住協に加盟していて良かったと感じてもらえる、会員の場を作っていきたい」と強調。今後の意気込みが伝わってきた。



今、求められる 災害対策の構築を

神奈川支部長に就任した
福田 健作(ふくだ けんさく)氏

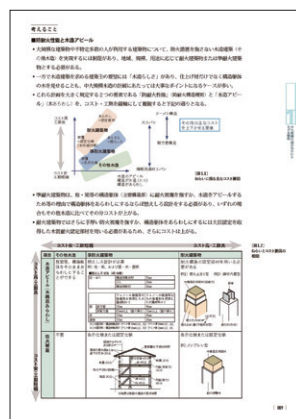
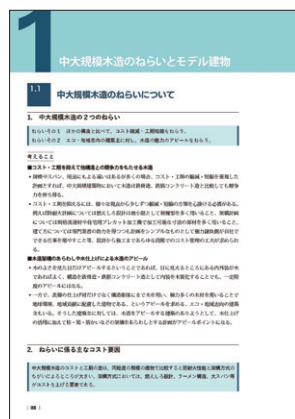
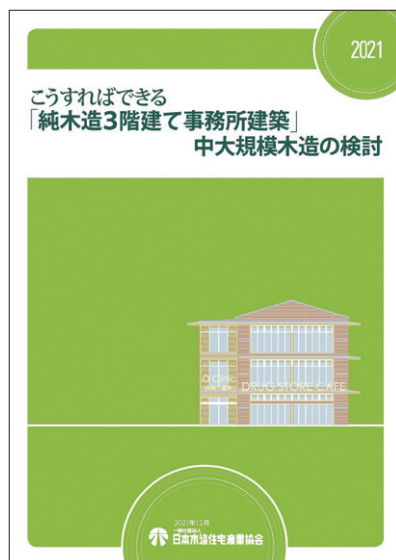
福田・新支部長は大学卒業後、現在のナイス(株)の前身である日栄不動産に入社。東京、山梨、埼玉で18年間、住宅建材の営業として活躍する。2012年からエネルギー関連の事業部に異動。「工学部出身だったこともあり、太陽光や脱炭素化の省エネ住宅を目指すエネルギーの専門部署の立ち上げに関わりました。現在は事業開発部サポートセンターという部署で、約1,500社の会員がいる組織をサポートしています。これは工務店の一戸建ての受注サポートをするもので、長期優良住宅やBELS(建築物省エネルギー性能表示制度)の申請、標準仕様書、ZEH(ネット・

ゼロ・エネルギー・ハウス)の営業ツールの作成等を行っています」と説明する。執行役員事業開発部部長、太陽光事業のグループ会社・スマートパワー(株)の代表取締役も兼任している。神奈川県伊勢原市出身。現在は横浜市に奥様と娘さん2人と暮らす。

「神奈川支部は前支部長の時から、災害時における木造応急仮設住宅の供給体制の整備や調査を率先して行い、各支部の中でも先行しています。しかしながら、今後は時代が変わりゆく中で、様々な想定をして災害に備えることが重要と考えます。支部のメンバー同士が議論を重ねながら、今求められる災害対策を深めていきたい」と抱負を語る。入社一年目に阪神淡路大震災があり、災害現場を見て住宅業界として何かしなくてはと感じたという。会社と共に勉強し、直近の熊本県の震災では復興住宅にも関わった。「物を売るだけではなく、万が一の時に備えて県や地域に役立つことは何か。会員の皆様のご協力を得て、災害対策の構築を進めていきたいと思います」と目標を強調した。

『こうすればできる「純木造3階建て事務所建築」 中大規模木造の検討』講習会

書籍発刊を記念した講習会をオンラインで開催



- 発行日：令和 3 年 12 月
- サイズ / ページ数：A4/139P
- 担当：技術開発部
- 書籍に関する詳細は木住協 HP に掲載

木住協では、中大規模木造建築を計画するにあたっての建築物の木材利用に関する情報提供の一環として、住宅生産にて培われた既存の技術を応用しながら実現可能な汎用性のある建物を想定し、具体的なモデル建物を「3階建て・延べ面積約1,000㎡・準耐火構造の事務所ビル」として設定し、意匠・構造・設備の計画、設計時の留意事項、施工時の協業体制や対応の考え方等についてより具体的に整理し、鉄骨造モデルとの建設コスト比較した資料を含め、『こうすればできる「純木造3階建て事務所建築」中大規模木造の検討』と題した書籍を令和3年12月に発刊。これに伴い、この書籍をテキストにした講習会を東京・大阪の2会場で会場参加も含めて開催予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、急遽ZOOMを使って2月1日オンラインにて開催され、約75名の参加者が受講した。中大規模木造や非住宅建築への取り組みを始めようとしている方々にとって非常に参考となる内容となった。

講習会では、初めに木住協技術開発部の高橋雅司氏より導入として木材利用の促進に関する背景が説明された。

2050年カーボンニュートラルの実現に向けた施策、地球温暖化防止や森林資源・林業の健全化の必要性への注目といった社会的背景から、昨年の改正木促法「脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利

用の促進に関する法律」など関連法令の推移、そうした流れをサポートしてきた木住協の主な取組みについての説明があり、あわせて講習会のテキスト『こうすればできる「純木造3階建て事務所建築」中大規模木造の検討』の主旨が説明された。続いて、テキストの第1章『中大規模木造のねらいとモデル建物』の概要について触れ、特にモデル建物については、共同住宅でも実績のある3階建て・防火壁を要しない1,000㎡以下・耐火建築物を要しない地域、用途、規模・新しい生活・仕事スタイルに対応といった、汎用性があり実態に即した建物を想定しており、木造の良さをアピールできるモデル棟となっている旨を強調した。

その後、第2章からは書籍著者であるアルセット建築研究所 小口亮氏が講師をつとめた。2章以降のテキスト概要は、以下の通り。

●3階建て1,000㎡木造準耐火建築物テナントビル計画のポイント

- 構造フレームを考える
- 準耐火構造等の性能をふまえた各部仕様
- 設備計画への配慮
- 木造らしく、長持ちのためのしつらえ
- 木構造工事と木造ファブリケーターその役割と一般住宅と中大規模木造での流れの違い
- モデル建物の設計図と建設コストの比較

最後に、木住協高橋氏より「この書籍を活用して、中大規模木造建築の普及にぜひ邁進していただくようお願いいたします」とのメッセージで講演会は終了した。



2022年度 木造ハウジングコーディネーター資格試験 および講習会の開催概要

今年度で22回を迎え、これまでの資格取得者は約6千人を数える「木造ハウジングコーディネーター」。木造ハウジングコーディネーター資格制度では、一昨年よりDX化に取り組む中、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、講習会はWEB配信、資格試験は全国約100か所のテストセンターにてデジタルで行う方式で実施しました。受講者および受験者からは安全で利便性が向上し、筆記用具不要のデジタル試験に対して高評価をいただきました。

今年度は更にDX化を推進し、WEB講習会の長期間配信、テストセンター活用による全国規模のデジタル試験といたします。また、実際のデジタル試験を想定したWEBを活用したデジタルによる「想定問題集」を提供します。

木造軸組工法住宅の基本から、設計・施工にわたる知識を広く学んでいただき、理想の住まいをコーディネートできる住宅営業職・設計職を育成することを目的とした「木造ハウジングコーディネーター」資格取得を、貴社の人材育成に是非ともご活用ください。

講習会

- 対面型 9月12日(月)・13日(火)の2日間
- WEB配信 配信期間中、都合の良い時間帯をいつでも受講可能

配信日程

10月15日(土)～11月30日(水)

資格試験

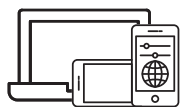
試験日：2022年12月6日(火)または7日(水)
10時～18時までの、各自でいずれかの試験日時を選択し予約

試験時間：2時間

会場：全国約100か所のテストセンターにおけるデジタル試験

木造ハウジングコーディネーター講習会・資格試験

対面講習会のWEB配信と「想定問題集」のデジタル化



PC・スマホ・タブレットがあれば、どこでもOK



決められた期間の好きな時間に受けられるので時間に無駄がありません



「想定問題集」のデジタル化により学習のしやすさで学力アップ



自宅や職場で受講できるので移動不要で出費削減



分かりやすいカリキュラムでシンプルで学びやすい

学び方のご提案

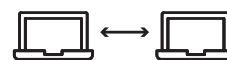
資格試験会場は全国テストセンター



全国に多数の会場を用意
主要都市には複数の会場



好きな試験会場で受験
試験は紙からデジタルへ



試験室はソーシャルディスタンス
安心して受験できます

新規会員紹介

2022年1月から2022年5月までに入会されました企業を紹介します。みなさん、よろしくお願いします。

ADACHI住建

賛助会員

代表 足立 崇

親子二代にわたって工務店を営んでいます。地元根付いた地域密着型の工務店ならではの、・地元の土地を熟知・親身な対応・担当が変わらない・価格と自由度・柔軟な対応といった特色があり、お客様に安心して頂けるよう心掛けています。設計から施工まで、大工だからこそできる心のこもった、家族のぬくもりと笑顔を感じられる、心がほっとする住まいづくりをモットーに、「行列のできる工務店」を目指しています。福知山で注文住宅をご検討されている方は、是非ご相談ください。

〒620-0962 京都府福知山市字榎原1279

TEL : 0773-21-5875 FAX : 0773-21-5885

<https://www.house-doctor-adachi.com/>

(株)SHG

1種A正会員

代表取締役 寺田 充孝

私達は、子育て世代の方たちへ夏涼しく、冬暖かく地震に強い高性能な家をつかっこよくどこよりもお値打ちにつくりま

す。

〒450-6321 愛知県名古屋市中村区名駅1-1-1

JPタワー名古屋21階

TEL : 0532-33-3137 FAX : 0532-33-3138

<https://www.shg-jp.com>

(株)榎田建築

1種C正会員

代表取締役 榎田 公貴

地域密着

〒518-0622 三重県名張市桔梗が丘2番町5-65

TEL : 0595-48-6418 FAX : 0595-48-6419

<https://www.enokidakentiku.com>

(株)神谷総合建設

1種B正会員

代表取締役 神谷 善照

会社創立以来、デザインと性能の両面を追求してきました。お客さまのため、一棟一棟を丁寧に建てることをやりがいと

している、そんな工務店です。

〒441-8122 愛知県豊橋市天伯町字豊216-2

TEL : 0532-48-5252 FAX : 0532-48-7955

<https://www.kamiso.com/>

(株)建築資料研究社

賛助会員

代表取締役社長 馬場 栄一

主に各種資格(建築士、施工管理技士等)取得支援を全国展開、定期講習等の法定講習実施機関の中小企業様、工務店様向け教育サービスを実施しております。

〒171-0014 東京都豊島区池袋2-50-1

TEL : 03-3988-4715 FAX : 03-3971-1183

<https://www.ksknet.co.jp>

(株)CONCEPT建築設計

1種C正会員

代表取締役 橋本 裕之

高気密高断熱住宅の設計と分離発注での施工です。

〒921-8065 石川県金沢市上荒屋4-155-2

TEL : 076-240-8491 FAX : 076-240-8492

<https://hashi-net.com>

(有)佐村建設

1種C正会員

代表取締役 佐村 謙信

業務内容は、主に手刻みによる、梁等を化粧とした軸組工法をしています。

〒861-4622 熊本県上益城郡甲佐町上早川2838

TEL : 096-234-2817 FAX : 096-234-2817

(株)スタジオカーサ

1種C正会員

代表取締役 加納 忠

木造注文住宅の新築・改修の設計・施工 マンション専用
部分の改修工事の設計・施工

〒222-0011 神奈川県横浜市港北区菊名6-21-30

TEL : 045-859-9191 FAX : 045-859-9192

<https://studiocasa-style.com>**田島ルーフィング(株)**

1種B正会員

取締役 住建営業部部长 岩永 慎二

防水材料、屋根葺材、床材の製造及び販売

〒101-8575 東京都千代田区岩本町3-11-13

田島ビル

TEL : 03-5821-7713 FAX : 03-5821-2180

<https://tajima.jp>**(有)大廣建設**

1種C正会員

代表取締役 塩田 勝彦

家づくりを通して地域の未来も作りたい、「匠の心」思いやり
で誠心誠意でお答えします。

〒690-0024 島根県松江市馬潟町341-4

TEL : 0852-33-7889 FAX : 0852-33-7769

<https://dai-kou.co.jp>**(株)ハウスデザインラボ**

1種C正会員

代表取締役 木村 祐規

高性能でカッコいい家をお値打ちに建てます。

〒509-0251 岐阜県可児市塩1277-2 103号

TEL : 0574-60-2239 FAX : 0574-60-2238

<https://house-designlab.com/>**光綜合工業(株)**

1種B正会員

代表取締役 三浦 寿雄

〒874-0919 大分県別府市石垣東8-1-13

TEL : 0977-27-0287 FAX : 0977-24-7737

<http://hikari-sougou.co.jp/>**(有)藤川工務店**

1種B正会員

代表取締役 藤川 豊文

地域産材を活用した住宅・非住宅の建築に特化、大工、左官、
基礎工事を直営で行う地元密着型工務店

〒781-3601 高知県長岡郡本山町本山365

TEL : 0887-76-2016 FAX : 0887-76-4158

<https://www.fujikawa3.com>**(株)マスターピース**

1種B正会員

代表取締役 伊藤 誠

秋田県全域で注文住宅・分譲住宅・賃貸住宅・店舗等の設
計施工及び工事監理を行っております。

〒010-1429 秋田県秋田市山手台1-1-1

TEL : 018-889-6080 FAX : 018-889-6412

<https://masterpiece-akita.jp>**(株)メディアキューブ**

賛助会員

代表取締役 北村 秀行

広告販促各種ツール制作

〒107-0052 東京都港区赤坂6-9-5 504号

TEL : 03-6234-4980 FAX : 03-6234-4981

<https://cube-group.jp>**(株)守安建設**

1種C正会員

代表取締役 守安 儀浩

木造建築、新築工事、リフォーム工事

〒710-0036 岡山県倉敷市粒浦235-5

TEL : 090-6439-8798 FAX : 086-425-7513

<https://moriyasukensetsu.com>



聴松閣正面から



聴松閣 1 階の旧食堂



聴松閣 2 階の書斎



伴華楼正面から



〈愛知県名古屋市〉

聴松閣 (ちょうしょうかく)

江戸時代から代々呉服商を営む家柄で、名古屋初のデパートメントストア松坂屋を創業した15代伊藤次郎左衛門祐民が、名古屋・覚王山に広大な別邸・揚輝荘を建設した。揚輝荘といってもこうした名前の建物があるわけではなく、約一万坪の敷地に大小30数棟の建物が軒を連ね、皇族、政治家、実業家、文化人など各界の名士が来荘し、園遊会、観月会、茶会などが開かれる郊外の社交場であったという。この栄華を今に残しているのが、迎賓館として使われていた「聴松閣」である。

「聴松閣」は、自然木を生かした外壁の赤いベンガラが印象的なハーフティンバー様式の山荘風建築物。欧風の外観とは異なり、内装は仏教に造詣が深かった祐民の好みを反映して、地階は全体がインド様式、一階から三階もアジア各国の様式がミックスされた造りになっている。設計に当たったのは、昭和初期に活躍した竹中工務店の建築技師・小林三造であった。

戦争中の空襲や戦後の宅地開発のため多くの施設は失われたが、平成になって聴松閣をはじめ残存する5棟が名古屋市に寄贈され、平成25年(2013年)に創建当時の姿に復元された。現在、往時を偲ぶ記念館となっている。

聴松閣	名古屋市指定有形文化財
建築	昭和12(1937)年
所在地	〒464-0057 愛知県名古屋市千種区法王町2丁目5番地17
電話	052-759-4450
入園料	一般/高校・大学生 300円 中学生以下 無料
開園	午前9時30分～午後4時30分
休園日	毎週月曜日(祝日の場合はその直後の平日)、年末年始
所有管理	名古屋市

<http://www.mokujukyo.or.jp>



一般社団法人

日本木造住宅産業協会



木芽

2022年7月5日発行

Vol.181

発行人 越海 興一

編集 業務・広報部

〒106-0032 東京都港区六本木1-7-27 全特六本木ビル WEST棟2階

電話 03(5114)3010(代) FAX 03(5114)3020